

スコープ2 排出量開示状況データ 2021 （企業別）
 Scope 2 Emissions Disclosure Status Data (for each company)

温室効果ガス（GHG）スコープ2 研究会
 Greenhouse Gas (GHG) Scope 2 Study Group
 （2022 年 4 月作成）
 (Prepared in April 2022)

（参考：スコープ2 排出量開示ガイダンスでは、使用する排出係数の種類について、次のように推奨しています。二元報告（国内排出量）：ロケーション基準：全国平均係数、マーケット基準：1. GHG プロトコル・スコープ2 ガイダンスに準拠したマーケット基準排出係数、2. 調整後排出係数、一元報告（国内排出量）：1. GHG プロトコル・スコープ2 ガイダンスに準拠したマーケット基準排出係数、 2. 調整後排出係数。また、スコープ2 排出量開示ガイダンスでは、二元報告を推奨しています。 詳しくは、スコープ2 排出量開示ガイダンス（研究会のウェブサイト（<https://www.slvcesin.com/>）に掲載）を参照してください。）

(Reference: In Scope 2 Emissions Disclosure Guidance, following recommendations are made about types of emission factor to be used. Dual Reporting (emissions in Japan): location-based method: National Average Emission Factor, market-based method: 1 market-based emission factor in conformance with Scope 2 Guidance of GHG Protocol, 2 Adjusted Emission Factor, Single Reporting (emissions in Japan): 1 market-based emission factor in conformance with Scope 2 Guidance of GHG Protocol, 2 Adjusted Emission Factor. In Scope 2 Emissions Disclosure Guidance, dual reporting is recommended. For the details, see Scope 2 Emissions Disclosure Guidance (Website of the Study Group (<https://www.slvcesin.com/>)))

星印欄に記載の★は以下を意味しています。なお、以前に頂いた回答も考慮して、星印を記載しています。
 The ★ mentioned in Star means followings. Stars are mentioned considering replies received in previous years.

★	スコープ2 排出量を開示（一元報告）。 Disclosing scope 2 emissions (Single Reporting)	★★	スコープ2 排出量を開示（一元報告）。 国内の排出量の算定に GHG プロトコル・スコープ2 ガイダンスに準拠したマーケット基準排出係数又は調整後排出係数の使用を開示。 Disclosing scope 2 emissions (Single Reporting). Disclosing using of market-based method emission factor in conformance with GHG Protocol・Scope 2 Guidance or Adjusted Emission Factor for calculation of emissions in Japan.
★★★★	スコープ2 排出量をロケーション基準及びマーケット基準の双方で開示（二元報告）。 Disclosing scope 2 emissions in market-based method and location-based method (Dual Reporting)	★★★★★	スコープ2 排出量をロケーション基準及びマーケット基準の双方で開示（二元報告）。 国内のマーケット基準排出量の算定に GHG プロトコル・スコープ2 ガイダンスに準拠したマーケット基準排出係数又は調整後排出係数の使用を開示。 Disclosing scope 2 emissions in market-based method and location-based method (Dual Reporting). Disclosing using of market-based method emission factor in conformance with GHG Protocol・Scope 2 Guidance or Adjusted Emission Factor for calculation of emissions of market-based method in Japan.

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準（L） Location -based (L)	マーケット 基準（M） Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
生活・サービス									

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ 2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準（L） Location -based (L)	マーケット 基準（M） Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
Life and Service									
楽天グループ Rakuten Group	2020 年 12 月期 Year ended Dec. 31, 2020	企業情報・楽天グループウェブサイト⇒サステナビリティ⇒環境⇒楽天グループ ESG データブック 2020	93,192 t-CO2	66,494 t-CO2			二元報告を実施 M/L=0.71 前年比 M: 1.32、L: 1.43 排出量： 排出量が前年を上回っている。⇒排出量が前年を上回った理由を開示するのが望ましい。 排出係数： 排出係数の種類について、記載がない。 ⇒排出係数の種類を記載するのが望ましい。	Dual Reporting M/L=0.71 Comparison with the previous year M: 1.32、L: 1.43 Emissions: Exceeding the previous year ⇒should disclose the reason for exceeding the previous year。 Emission Factor: No description about type of emission factor ⇒ should describe the type of emission factor.	★★★
	2019 年 12 月期	楽天グループ ESG データブック 2019	65,235 t-CO2	50,564 t-CO2			二元報告を実施 M/L=0.76 排出係数の種類について、記載がない。		
株式会社 資生堂 Shiseido Company, Limited	2020 年 Y2020	資生堂ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒サステナビリティレポート 2020→環境データ (p. 54)			46,490 t-CO2	GHG プロトコルの手法（Scope2 はマーケット基準）を採用	前年比：0.90 排出係数： 排出係数の種類について、記載がない。 ⇒排出係数の種類を記載するのが望ましい。	Comparison with the previous year: 0.90 Emission Factor: No description about type of emission factor ⇒ should describe the type of emission factor.	★
	2019 年	サステナビリティレポート 2019 (p. 52)			51,714 t-CO2	サステナビリティレポート 2019 (p.52) 環境データ、CO2、Scope1&2 GHG プロトコルの手法（Scope2 はマーケット基準）を採用	排出係数の種類について、記載がない。		
コーセーグループ KOSE Group	2020 年度 FY2020	Maison KOSE ウェブサイト⇒企業情報⇒サステナビリティ関連データ⇒【地球へ】（環境 Environment）の指標	16,204.0 t-CO2	16,185.0 t-CO2			二元報告を実施 M/L = 0.999 前年比 M: 0.96、L: 1.03 排出係数： 排出係数の種類について、記載がない。 ⇒排出係数の種類を記載するのが望ましい。	Dual Reporting M/L = 0.999 Comparison with the previous year: M: 0.96、L: 1.03 Emission Factor: No description about type of emission factor ⇒ should describe the type of emission factor.	★★★
	2019 年度	Maison KOSE ウェブサイト⇒企業情報⇒サステナビリティ	15,772.3 (t-CO2)	16,859.6 (t-CO2)		【お問い合わせを行い頂いたご回答】 <国内>	二元報告を実施 M/L = 1.07		

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
		ティ関連データ⇒【地球へ】（環境 Environment）の指標、エネルギー、CO2(GHG)排出量（t-CO2）				マーケット基準は環境省公表の排出係数、ロケーション基準は電気事業低炭素社会協議会公表の排出係数を使用。 ＜海外＞ 環境省または、IGES List of Grid Emission Factors 公表の国別係数を使用。 （ご承諾をいただいて記載しています。）	マーケット基準排出量がロケーション基準排出量より大きい。 国内： マーケット基準：環境省公表の排出係数 ロケーション基準：電気事業低炭素社会協議会公表の排出係数 海外： 環境省または、IGES List of Grid Emission Factors 公表の国別係数を使用		
花王株式会社 Kao Corporation	2020 年度 （2020 年 1 月 1 日～12 月 31 日） FY 2020 (from Jan 1, to Dec, 31)	花王株式会社ウェブサイト⇒企業情報⇒サステナビリティ⇒ESG Report Hub⇒花王サステナビリティ データブック 2021→脱炭→スコープ2 CO2 排出量の推移 (P94)			283 kt-CO2e	※スコープ別排出量は GHG プロトコルイニシアティブの定義に従う。 スコープ2：購入した電力・熱等の間接的な GHG 排出量 ※ 排出係数 スコープ2：原則として各国法規等の固有の係数を使用し、固有の係数を把握できない場合は、IEA（国際エネルギー機関）で公表されている国別係数を使用しています。	前年比：0.88 排出係数： 国内：各国法規等の固有の排出係数を使用→排出係数の種類（例えば、基礎排出係数、調整後排出係数）について記載がない。⇒排出係数の種類を明確に記載するのが望ましい。	Comparison with the previous year: 0.88 Emission Factor In Japan: using emission factor based on regulations of each country → No description about type of emission factor(e.g. Basic Emission Factor, Adjusted Emission Factor) ⇒ should describe the type of emission factor.	★
	2019 年度 （2019 年 1 月 1 日～12 月 31 日）	花王サステナビリティ データブック 2020 花王サステナビリティ データブック 2021→脱炭 (P94)⇒CDP2020 気候変動回答 C.6.3	443,636 (metric tons CO2e)	320,081 (metric tons CO2e)	320 kt-CO2e	環境データ、スコープ2 CO2 排出量の推移 ※スコープ別排出量は GHG プロトコルイニシアティブの定義に従う。 スコープ2：購入した電力熱等の間接的排出量 ※排出係数 スコープ2：原則として各国法規等の固有の係数を使用し、固有の係数を把握できない場合は、国際エネルギー機関（IEA）で公表されている国別係数を使用しています。	二元報告(CDP2020 気候変動回答) M/L = 0.72 国内：排出係数の種類（基礎排出係数又は調整後排出係数）について、記載がない。 二元報告の数値は、CDP2020 気候変動回答に記載の数値。CDP2020 気候変動回答では、二元報告が行われている。		
ライオン株式会社 Lion Corporation	2020 年 Y2020	ライオンウェブサイト⇒企業情報⇒サステナビリティ⇒ライオンのサステナビリティ⇒ESG データ・第三者			91 kt-CO2	スコープ2：購入したエネルギーの生産（発電等）にともなう間接排出	前年比：0.97 排出係数： 排出係数の種類について、記載がない。⇒排出係数の種類を記載するのが望ましい。	Comparison with the previous year: 0.97 Emission Factor: No description about type of emission factor ⇒ should describe the type of emission factor.	★

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ 2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
		検証⇒環境⇒事業所のスコープ 1、2 別の温室効果ガス排出量							
	2019 年				94 kt-CO2	スコープ 2：購入したエネルギーの生産（発電等）にともなう間接排出	国内：排出係数の種類について、記載がない。		
小売り・卸・ 外食 Retails・ Wholesale, Restaurant									
株式会社 丸井グループ MARUI GROUP CO., LTD.	2021 年 3 月期 Year ended Mar. 31, 2021	丸井グループウェブサイト⇒サステナビリティ⇒サステナビリティライブラリー⇒2021 年 3 月期 ESG データブック⇒環境⇒気候変動			37,858 t-CO2	2021 年 3 月期 ESG データブック 環境情報検証報告書 1. 検証の対象 「「(株) 丸井グループ温室効果ガス排出量算定基準(Ver.5)」---に準拠し、」	前年比：0.56 排出係数： 排出係数の種類について、記載がない。 ⇒排出係数の種類を記載するのが望ましい。	Comparison with the previous year: 0.58 Emission Factor: No description about type of emission factor ⇒ should describe the type of emission factor.	★
	2020 年 3 月期				67,916 t-CO2	2020 年 3 月期 ESG データブック 環境情報検証報告書 1. 検証の対象 「「(株) 丸井グループ温室効果ガス排出量算定基準(Ver.4)」---に準拠し、」	排出係数の種類について、記載がない。		
三越伊勢丹ホールディングス Isetan Mitsukoshi Holdings Ltd.	2021 年 3 月期 Year ended Mar. 31, 3021	三越伊勢丹ホールディングスウェブサイト⇒サステナビリティ⇒ESG データ集⇒環境⇒			123,237 t-CO2	※2 集計範囲の修正および排出係数を固定係数から調整後変動係数に変更したことで、CO2 排出量およびエネルギー使用量は過去にさかのぼり変更しました	前年比 0.81 排出係数： 調整後排出係数	Comparison with the previous year: 0.81 Emission Factor: Adjusted Emission Factor	★ ★
	2020 年 3 月期	三越伊勢丹ホールディングスウェブサイト⇒サステナビリティ⇒データ集⇒環境⇒			152,628 t-CO2	※2 集計範囲の修正および排出係数を固定係数から調整後変動係数に変更したことで、CO2 排出量およびエネルギー使用量は過去にさかのぼり変更しました	排出係数 調整後変動係数とは調整後排出係数を意味しているか不明。		
エイチ・ツー・オー リテイリング株式	2020 年度 FY 2020	エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社・コーポレートサイト⇒サステナビ			164,869 t-CO2e	温室効果ガス排出量の算定について スコープ 2 排出量=Σ（購入電力量等（温水・冷水・蒸気	前年比 0.87 排出係数: 環境省・経済産業省公表の電気事業者別	Comparison with the previous year: 0.87 Emission Factor: using emission factor of each electricity utility published by Ministry of the Environment and	★

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準（L） Location -based (L)	マーケット 基準（M） Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
会社 H2O RETAILING CORPORATIO N		リテイ⇒総合レポート⇒統 合レポート 2021→データ 集（p.43）				を含む）×CO2 排出係数※1） ※1 地球温暖化対策の推進に関する法律に基づ く係数 電力については、環境省・経済産業省公表 の電気事業者別排出係数を使用	排出係数を使用→ 排出係数の種類が明確に記載されていな い。⇒排出係数の種類（例えば、基礎排 出係数、調整後排出係数）を明確に記載 するのが望ましい。	Ministry of Economy, Trade and Industry. →No description about type of emission factor ⇒ should describe clearly the type of emission factor (e.g. Basic Emission Factor, Adjusted Emission Factor).	
	2019 年度				189,637 t-CO2e				
セブン&ア イ・ホールデ ィングス Seven & i Holdings Co., Ltd	2020 年4月 1日～ 2021年 3月31 日 Year ended Mar. 31, 2021	作成中							
	2019 年4月 1日～ 2020年 3月31 日	CSR データブック 温室効果ガス排出量検証報 告書			2,853,560 t-CO2		排出係数： 排出係数の種類について、記載がない。		
総合商社 General trading companies									
伊藤忠商事 グループ ITOCHU Corporation Group	2020 年度 FY2020	伊藤忠商事ウェブサイト⇒ サステナビリティ⇒ESG レ ポート・環境⇒気候変動⇒ パフォーマンスデータ→ GHG（温室効果ガス）排出 量→事業用施設起因の GHG 排出量			799,562 t-CO2e	※ 伊藤忠グループの GHG 排出量は経営支配基 準（the control approach）で集計しています。 ※東京本社は東京都環境確保条例、大阪本社・ 国内支社・国内支店及びその他の事業用施設・ 国内事業会社は省エネ法・温対法に基づき算出 しています。（電力会社別の基礎排出係数使 用） ※ 海外現地法人、海外事業会社は、2018 年度	前年比：0.96 排出係数： 国内：電力会社別の基礎排出係数を使用 ⇒基礎排出係数を用いるのが良いか再検 討するのが望ましい。 海外：IEA の最新の公表データ（2020 年 度は 2018 年データ）による CO2 換算係 数を使用	Comparison with the previous year: 0.96 Emission Factor: In Japan: using Basic Emission Factor of each electricity utility ⇒ should review whether using Basic Emission Factor is appropriate or not. Outside Japan: using emission factor of latest data published by IEA (data of 2018 for Fiscal Year 2020)	★

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
						までは International Energy Agency (IEA) の国別の 2010～2012 年の平均値による CO2 換算係数に基づき算定していましたが、2019 年度以降は、IEA の最新の公表データによる CO2 換算係数に基づき算定しています。（2020 年度は 2018 年データを適用） ※ GHG の算出は、WRI（World Resources Institute：世界資源研究所）と WBCSD（World Business Council for Sustainable Development：持続可能な開発のための世界経済人会議）が主導して開発された GHG プロトコルを用いて算出しています。			
	2019 年度	パフォーマンスデータ			835,916 t-CO2e	東京本社は東京都環境確保条例、大阪本社・国内支社・国内支店及びその他の事業用施設・国内事業会社は省エネ法・温対法に基づき算出。（電力会社別の基礎排出係数使用） 海外現地法人、海外事業会社は、2018 年度までは International Energy Agency (IEA) の国別の 2010～2012 年の平均値による CO2 換算係数に基づき算定していましたが、2019 年度より、IEA の最新の公表データ（2019 年度は 2017 年データ）による CO2 換算係数に基づき算定しています。 GHG の算出は、WRI（World Resources Institute：世界資源研究所）と WBCSD（World Business Council for Sustainable Development：持続可能な開発のための世界経済人会議）が主導して開発された GHG プロトコルを用いて算出しています。	国内：電力会社別の基礎排出係数を使用 海外：IEA の最新の公表データ（2019 年度は 2017 年データ）による CO2 換算係数		
三菱商事 （連結） Mitsubishi Corporation	2020 年度 FY2020	三菱商事ウェブサイト⇒サステナビリティ・CSR⇒サステナビリティウェブサイト⇒サステナビリティレポ			2,411 kt-CO2e	※2 算定基準として以下を採用しています。 電力等の使用に伴う間接的な CO2 排出 IEA CO2 Emissions from Fuel Combustion（2016 edition）2014 年度の国別排出係数	前年比：0.94 排出係数： 国内・海外： IEA CO2 Emissions from Fuel Combustion	Comparison with the previous year: 0.94 Emission Factor: In and Outside Japan: using each country's emission factor of year 2021 in IEA CO2	★

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
(consolidated)		ート（p94）パフォーマンスデータ、環境データ（連結）					(2016 edition) 2014 年度の国別排出係数 ⇒最新の国別排出係数のデータを使用するのが望ましい。 ⇒国内について、IEA の排出係数を使用するのが良いか再検討するのが望ましい。	Emissions from Fuel Combustion (2016 edition) ⇒should use latest data of emission factor of each country ⇒ should review whether using of IEA's emission factor Emission Factor is appropriate or not for emissions in Japan.	
	2019 年度	環境パフォーマンスデータ			2,553 kt-CO2e	電力等の使用に伴う間接的な CO2 排出 IEA CO2 Emissions from Fuel Combustion (2016 edition) 2014 年度の国別排出係数	国内： IEA CO2 Emissions from Fuel Combustion (2016 edition) 2014 年度の国別排出係数 ⇒国内についても、IEA の排出係数が使われている。 海外： IEA CO2 Emissions from Fuel Combustion (2016 edition) 2014 年度の国別排出係数		
三井物産 （連結） MITSUI & CO., LTD. (consolidated)	2020 年度 FY2020	三井物産ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒サステナビリティレポート 2021⇒環境パフォーマンスデータ (p121)			468 kt-CO2e	※1 [Scope1,2 算定の主な基準・係数] GHG Protocol 支配力基準に基づく連結。GHG Protocol「Emission-Factors-from-Cross-Sector-Tools-(March2017)」、International Energy Agency (IEA) Emissions Factors 2020、IPCC 2006 Guidelines for National Greenhouse Gas Inventories、エネルギー使用の合理化等に関する法律（省エネ法）等を参照し算定	前年比：0.82 クレジット（J-クレジット、J-VER）調整後の数値 排出係数： 国内：排出係数の種類が明確でない⇒排出係数の種類を明確に記載するのが望ましい。 海外：IEA missions Factors 2020		★
	2019 年度	環境パフォーマンスデータ サステナビリティレポート 2020			570 kt-CO2e	[Scope1、2 算定の主な基準・係数]GHG Protocol「Emission-Factors-from-Cross-Sector-Tools- (March2017)」、International Energy Agency (IEA) Emissions Factors 2019、IPCC 2006 Guidelines for National greenhouse Gas Inventories、エネルギー使用の合理化等に関する法律（省エネ法）。	国内： ⇒排出係数の種類が不明 海外：IEA missions Factors 2019		
丸紅 Marubeni Corporation	2021 年 3 月期 Year ended Mar. 31, 2021	丸紅ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒環境→環境データ⇒GHG データ			282,171 t-CO2e	電力の CO2 排出係数 単体については、電気事業者別排出係数を使用しています。2019 年 3 月期までは基礎排出係数を使用していますが、2020 年 3 月期からは	前年比：0.91 排出係数： 国内：調整後排出係数を使用 海外：国際エネルギー機関（International	Comparison with the previous year: 0.91 Emission Factor: In Japan: using Adjusted Emission Factor. Outside Japan: using CO2 emission factor of each country of	★ ★

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準（L） Location -based (L)	マーケット 基準（M） Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
						調整後排出係数を使用しています。 国内の連結子会社については、2020 年 3 月期までは地球温暖化対策推進法に基づく代替値を使用していましたが、2021 年 3 月期からは調整後排出係数を使用しています。排出係数の変更に伴う排出量への影響は 7,627t-CO2 の減少となります。 海外の連結子会社については、国際エネルギー機関（International Energy Agency, IEA）による国別の CO2 排出係数（CO2 emissions per kWh from electricity generation）の値を使用しています。2021 年 3 月期からは再生可能エネルギー由来の電力については、Scope2 排出量の算定から除外しています。	Energy Agency, IEA）による国別の CO2 排出係数（CO2 emissions per kWh from electricity generation）	International Energy Agency (IEA)（CO2 emissions per kWh from electricity generation）.	
	2020 年 3 月期				310,500 t-CO2e				
住友商事 （連結） Sumitomo Corporation (consolidated)	2020 年度 FY2020	住友商事ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒環境データ			652,611 t-CO2e	電力の CO2 排出係数： （国内単体）直近の電力会社別の基礎排出係数を使用。 （国内連結子会社）全電源平均・受電端を使用。 （海外）国際エネルギー機関（International Energy Agency, IEA）が発行する「CO2 EMISSIONS FROM FUEL COMBUSTION 2016 EDITION」に記載された 2013 年の国別の排出係数を使用。	前年比：0.96 排出係数： 国内：単体：基礎排出係数、連結子会社：全電源平均・受電端 ⇒国内について基礎排出係数及び全電源平均・受電端を使用するのが良いか再検討するのが望ましい。 海外：IEA 「CO2 EMISSIONS FROM FUEL COMBUSTION 2016 EDITION」に記載された 2013 年の国別の排出係数を使用。⇒IEA データは、最新のデータを用いるのが望ましい。	Comparison with the previous year: 0.96 Emission Factor: In Japan: non-consolidated basis: Basic Emission Factor, consolidated subsidiary: average of all electric sources, at receiving end ⇒ should review whether using of Basic Emission Factor and average of all electric sources. IEA's emission factor Emission Factor is appropriate Outside Japan: emission factor of 2013 for each country in IEA “CO2 EMISSIONS FROM FUEL COMBUSTION 2016 EDITION”⇒ should use latest IEA data.	★
	2019 年度	住友商事ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒環境データ			683,156 t-CO2e	電力の CO2 排出係数： （国内単体）直近の電力会社別の基礎排出係数を使用。 （国内連結子会社）全電源平均・受電端を使用。	国内： 単体：基礎排出係数 連結子会社：全電源平均・受電端 海外：IEA 「CO2 EMISSIONS FROM FUEL COMBUSTION 2016 EDITION」に		

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
						（海外）国際エネルギー機関（International Energy Agency, IEA）が発行する「CO2 EMISSIONS FROM FUEL COMBUSTION 2016 EDITION」に記載された 2013 年の国別の排出係数を使用。	記載された 2013 年の国別の排出係数を使用。		
双日 （双日グループ） Sojitz Corporation (Sojitz Group)	2020 年度 FY2020	双日ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒ESG 開示情報⇒ESG 情報一覧⇒環境⇒気候変動⇒環境データ			206,283 t-CO2	B) 双日グループの電力消費量、及び CO2 排出量 ⑥ CO2 排出係数 ・単位発熱量及び排出係数は、「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」及び「地球温暖化対策の推進に関する法律」の算定基準に従って算定しています。なお、電力の排出係数については、双日単体は ELCS（電気事業低炭素社会協議会）が公表している直近の実排出係数、海外グループ会社は国際エネルギー機関 (International Energy Agency, IEA) が公表する直近の国別の排出係数を使用しています。 ④ 集計範囲 ※2019 年度以降に排出量が増加しておりますが、2018 年度に海外の製紙事業会社を買収したことが主な要因です。	前年比：1.36 排出量： 排出量が前年を上回っているのは、海外の製紙事業会社を買収したことが主な要因。 排出係数： 国内：ELCS の実排出係数（＝現在：ELCS の基礎排出係数）⇒ ELCS の基礎排出係数を用いるのが良いか再検討するのが望ましい。 海外：IEA が公表する直近の国別の排出係数	Comparison with the previous year: 1.35 Emissions: Main reason of emissions exceeding previous year is acquisition of a paper-manufacturing company outside Japan. Emission Factor In Japan: Actual Emission Factor (now Basic Emission Factor) of Electric Power Council for a Low Carbon Society (ELCS) ⇒ should review whether using of Basic Emission Factor of ELCS is appropriate or not. Outside Japan: latest emission factor of each country published by IEA	★
	2019 年度	環境データ			152,108 t-CO2	双日単体は ELCS（電気事業低炭素社会協議会）が公表している直近の実排出係数、海外グループ会社は電力の排出係数は国際エネルギー機関 (International Energy Agency, IEA) が公表する直近の国別の排出係数を使用しています。	国内：ELCS の実排出係数（＝現在：ELCS の基礎排出係数） 海外：IEA が公表する直近の国別の排出係数		
長瀬産業株式会社 NAGASE & CO., LTD.	2021 年 3 月期 Year ended Mar. 31, 2021	長瀬産業ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒サステナビリティデータ集⇒環境・事業を通じた温室効果ガス排出量（単位：t-CO2）	30,334 t-CO2	33,113 t-CO2			二元報告を実施 M/L = 1.09 前年比 M: 0.92、L: 0.95 排出量： マーケット基準排出量がロケーション基準排出量より大きい。⇒ マーケット基準排出量がロケーション基準排出量を上回っ	Dual Reporting M/L=1.09 Comparison with the previous year M: M: 0.92、L: 0.95 Emissions: Emissions of market-based method exceeds emissions of location-based method. ⇒ should explain reasons why emissions of market-based	★ ★ ★

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
							た理由を説明するのが望ましい。 排出係数： 排出係数の種類について、記載がない。 ⇒排出係数の種類を記載するのが望ましい。	method exceeds emissions of location-based method. Emission Factor: No description about type of emission factor ⇒ should describe the type of emission factor.	
	2020 年 3 月期		32,057 t-CO2	35,976 t-CO2			二元報告を実施 M/L = 1.12 マーケット基準排出量がロケーション基準排出量より大きい。		
エレクトロニクス Electronics									
株式会社 村田製作所 Murata Manufacturing Co., Ltd.	2020 年度 FY2020	村田製作所ウェブサイト⇒ 企業・IR・採用情報⇒CSR ⇒ 1) ⇒環境とムラタ⇒ 気候変動対策⇒TCFD への 対応⇒ 指標と目標			1,158 kt-CO2e	ムラタは CO2 算定方法を 2019 年度からマーケットベースに変更 ロケーションベース：その地域の電力網の平均 CO2 排出係数を使用して算定を行う方法 マーケットベース：電力契約ごとの CO2 排出係数を使用して算定を行う方法 後者の方が精度が高く、近年主流になってきており、ムラタは算定方法を 2019 年度からマーケットベースに変更 (参考 Link：ESG データ集) (参考 Link：GHG プロトコル ウェブサイト別ウィンドウで開く)	前年比：0.89 排出係数： 排出係数の種類について、記載がない。 ⇒排出係数の種類を記載するのが望ましい。	Comparison with the previous year: 0.89 Emission Factor: No description about type of emission factor ⇒ should describe the type of emission factor.	★
	2019 年度	村田製作所ウェブサイト⇒ ムラタについて⇒CSR への 取り組み⇒ 1) 環境とムラタ⇒ 気候変動対策⇒ ・ TCFD への対応⇒ 指標 と目標 ・ 温室効果ガス総排出量	1,165 千 (t-CO2)	1,302 千 (t-CO2)	1,302 kt-CO2	環境とムラタ⇒ 気候変動対策⇒ 1) 温室効果ガス総排出量の算出方法について 「グローバルな算出基準である GHG プロトコルに従い、以下の Scope (範囲) で算出しています。 Scope2※5: 電気、蒸気、熱の使用にともなう温室効果ガスの間接排出 *5. 2015 年度より新しいガイダンスが発行さ	1) 「気候変動対策」の「TCFD への対応」の中の「指標と目標」では、1,165 千 t-CO2(ロケーション基準)の数値が記載されている。また、環境データでは、スコープ2 排出量として 1,165,000t-CO2 と記載されている。 2) 「独立第三者の保証報告書」では、「スコープ2 (ロケーションベース)		

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
		削減⇒温室効果ガス排出量の第三者保証について⇒独立第三者の保証報告書 2) ESG データ集⇒環境データ				れ、ロケーション手法によって各国の CO2 換算係数を使用し算出しています。」 2) TCFD への対応⇒指標と目標 「ムラタでは、グローバルな算出基準である GHG プロトコルに従い、GHG 排出量を算定しています。」	1,165 千トン、スコープ2（マーケットベース）1,302 千トン」と記載されている。 二元報告を実施 M/L=1.12 マーケット基準排出量がロケーション基準排出量より大きい。 GHG プロトコルに従い、GHG 排出量を算定。 ロケーション基準：各国の CO2 換算係数⇒排出係数の具体的種類について言及がない。 マーケット基準：排出係数の種類について言及がない。例えば、国内：排出係数の種類(例、基礎排出係数、調整後排出係数等)について、記載がない。		
浜松ホトニクス株式会社 Hamamatsu Photonics K.K.	2020 年 9 月期 Year ended Sep.30, 2020	浜松ホトニクス株式会社ウェブサイト⇒会社情報⇒サステナビリティ/CSR⇒ ⇒1) Environment（環境）⇒CO2 排出削減・気候変動⇒地球温暖化対策に係る長期ビジョン ⇒2) ESG データ⇒Environment（環境）			42,359 t-CO2	地球温暖化対策に係る長期ビジョン ・スコープ2：購入電力等の使用に伴う間接排出 ・電力の CO2 排出係数は中部電力の実排出係数を使用	前年比：1.01 排出量： 排出量が前年を上回っている。⇒排出量が前年を上回った理由を開示するのが望ましい。 排出係数： 中部電力の実排出係数（現在、基礎排出係数）⇒基礎排出係数を用いるのが良いか再検討するのが望ましい。	Comparison with the previous year: 1.01 Emissions: Exceeding the previous year ⇒should disclose the reason for exceeding the previous year. Emission Factor: Using Actual Emission Factor (now Basic Emission Factor) of Chubu Electric Power ⇒ should review whether using of Basic Emission Factor of Chubu Electric Power is appropriate or not.	★
	2019 年 9 月期	Environment（環境）			41,931 t-CO2	※3 電力の CO2 排出係数は中部電力の実排出係数を使用しています。	排出係数：中部電力の実排出係数（現在、基礎排出係数）		
富士通グループ Fujitsu Group	2020 年度 FY2020	企業情報⇒サステナビリティ⇒環境活動⇒環境データ⇒地球温暖化防止⇒GHG プロトコルスタンダー	583 kt-CO2	540 kt-CO2		GHG プロトコルスタンダードに基づく温室効果ガス排出量	二元報告を実施 M/L= 0.93 前年比 M: 0.81、L: 0.82 排出係数： 排出係数の種類について、記載がない。 ⇒排出係数の種類を記載するのが望まし	Dual Reporting M/L=0.93 Comparison with the previous year M: M: 0.81、L: 0.82 No description about type of emission factor ⇒ should describe the type of emission factor.	★★★★

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
		ドに基づく温室効果ガス排出量					い。		
	2019 年度	GHG プロトコルスタンダードに基づく温室効果ガス排出量	715kt GHG	663kt GHG		GHG プロトコルスタンダードに基づく温室効果ガス排出量 【お問い合わせを行い頂いたご回答】 ・ロケーション基準 国内：全国平均排出係数として「電気事業低炭素協議会」発表の基礎排出係数最新値を使用 海外：毎年公開されている IEA Report 記載の国別排出係数最新値を使用 ・マーケット基準 国内：実際に契約している電気事業者の調整後排出係数を使用 もしくは温対法の電気事業者別調整後排出係数（メニュー別または「残渣」）を使用 海外：実際に契約している電気事業者の排出係数を使用（非化石証書適用含む） 不明の場合は毎年公開されている IEA Report 記載の国別排出係数最新値を使用 （ご承諾をいただいて記載しています。）	二元報告を実施 M/L= 0.93 ロケーション基準： 国内：電気事業低炭素協議会」発表の基礎排出係数最新値 海外：IEA Report 記載の国別排出係数最新値 マーケット基準： 国内：実際に契約している電気事業者の調整後排出係数を使用もしくは温対法の電気事業者別調整後排出係数（メニュー別または「残渣」） 海外：実際に契約している電気事業者の排出係数を使用（非化石証書適用含む） 不明の場合は毎年公開されている IEA Report 記載の国別排出係数最新値		
ソニー Sony Corporation	2020 年度 FY2020	ソニーグループポータルサイト⇒サステナビリティ⇒サステナビリティレポート 2021⇒データ集→ →(1) 環境 (p.179) →(2) 環境データ集計の方法および考え方(p.180) →(3) 独立保証報告書 (p,183)			1,204 kt--CO2	環境データ集計の方法および考え方 温室効果ガスに関連するデータの集計方法と考え方 事業所の温室効果ガス排出量 事業所内の電力、熱、燃料の使用、温室効果ガスの使用（製造プロセス用、設備等での使用）をもとに集計しています。 -エネルギー使用にともなう CO2 排出量（エネルギー起因） 各事業所での電力、熱および燃料（車両等の燃料を含む）の使用量に、CO2 換算係数を乗じて算出しています。	前年比 1.01 排出量： 排出量が前年を上回っている。⇒ 排出量が前年を上回った理由を説明するのが望ましい。 排出係数： 電気事業連合会により提供される 2014 年度の係数⇒ 新しい排出係数を使用するのが望ましい。使用する排出係数の種類について再検討するのが望ましい。	Comparison with the previous year: 1.01 Emissions: Exceeding the previous year ⇒ should disclose the reason for exceeding the previous year. Emission Factor Using emission factor of 2014 issued by Federation of Electric Power Companies of Japan (FEPC). ⇒ should use latest emission factor. should review the type of emission factor used.	

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
						なお、再生可能エネルギーの利用分（証書を含む）については、CO2 換算係数をゼロとしています。 - CO2 換算係数について 「電力」 日本：電気事業連合会により提供される 2014 年度の係数 海外：国際エネルギー機関 (IEA) により提供される 2013 年の係数 独立保証報告書 スコープ2：1,204kt-CO2（マーケット基準）			
	2019 年度	ソニーグループポータルサイト⇒サステナビリティ⇒サステナビリティレポート 2020⇒データ集⇒ (1)環境 (p.153) (2) 環境データ集計の方法および考え方(p.155) (3) 独立保証報告書(p.158) ⇒拡大表示⇒検証された温室効果ガス排出量			1,188 kt-CO2 1,188,286 t-CO2	環境データ集計の方法および考え方(p.155)、温室効果ガスに関連するデータの集計方法と考え方、事業所の温室効果ガス排出量、 - CO2 換算係数について 「電力」 日本：電気事業連合会により提供される 2014 年度の係数 海外：国際エネルギー機関 (IEA) により提供される 2013 年の係数 独立保証報告書(p.158) ・ 検証された温室効果ガス排出量 スコープ2、1,188 kt-CO2e (マーケット基準)	排出係数 電気事業連合会により提供される 2014 年度の係数 古い排出係数を使用している。		
日立グループ Hitachi Group	2020 年度 FY2020	日立ウェブサイト⇒日立グループの企業情報⇒サステナビリティ⇒サステナビリティレポート⇒日立サステナビリティレポート 2021⇒環境データ			2.09 Mt-CO2e	「日立におけるバリューチェーンを通じた温室効果ガス排出量の詳細（2020 年度）」のスコップ2 の注※2 に以下の記載がある。 「※2 CO2 排出量の算出に使用した CO2 電力換算係数は、IEA Emission factors 2019 CO2kWh（2019 年版：国際エネルギー機関	前年比：0.72 排出係数： 記載1： 国内・海外：IEA Emission factors 2019 CO2kWh（2019 年版：国際エネルギー機関（IEA）の 2017 年の World 換算係数	Comparison with the previous year: 0.72 Emission Factor: Description 1: In and outside Japan: Using World Conversion Factor of 2017 in IEA Emission factors 2019 CO2kWh（2019 edition: International Energy Agency	★ ★

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
						(IEA)) の 2017 年の World 換算係数を使用」 一方、「事業活動におけるエネルギー投入量と温室効果ガス (GHG) 排出量」の項目の注として以下の記載がある。 「※ 電力使用量からの CO2 は、マーケット基準で算定しています。電力 CO2 排出係数は、日本（発電所含む）については地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく電力事業者別の調整後排出係数、海外については IEA の国別排出係数の各年度における最新値および電力供給会社が提供する最新の係数を使用しています」	を使用 記載 2 : 国内：調整後排出係数 海外：IEA の国別排出係数の各年度における最新値および電力供給会社が提供する最新の係数 国内の排出係数について異なる二つの記述がある。⇒排出係数について記載を統一するのが望ましい。	(IEA)) Description 2: In Japan: Adjusted Emission Factor Outside Japan: Latest value of each year of emission factor for each country and the latest emission factor provided by electricity suppliers. There are two different descriptions about emission factor. ⇒ should unify the description about emission factor.	
	2019 年度	日立サステナビリティレポート 2020 環境データ			2.89 Mt-CO2e	「日立におけるバリューチェーンを通じた温室効果ガス排出量の詳細（2020 年度）」のスコープ2 の注※2 に以下の記載がある。 「※2 CO2 排出量の算出に使用した CO2 電力換算係数は、IEA Emission factors 2019 CO2kWh（2019 年版：国際エネルギー機関（IEA）の 2017 年の World 換算係数を使用」 一方、「事業活動におけるエネルギー投入量と温室効果ガス (GHG) 排出量」の項目の注として以下の記載がある。 ※ 2019 年度の集計から、Scope2 排出量をグループ一律の電力排出係数を用いた算定からマーケット基準での算定へ変更し、過去に遡り再集計しました。電力 CO2 排出係数は、日本（発電所含む）については地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく電力事業者別の調整後排出係数、海外については IEA の国別排出係数の各年度における最新値を使用しています」	国内・海外： IEA Emission factors 2019 CO2kWh（2019 年版：国際エネルギー機関（IEA）の 2017 年の World 換算係数を使用 国内について IEA の排出係数を用いているのか、調整後排出係数を用いているのかわからない。		
三菱電機株式会社	2020 年度 FY2020	三菱電機ウェブサイト⇒企業情報⇒サステナビリティ	942 kt-CO2	812 kt-CO2		・第三者保証検証報告(p.37) マーケット基準：812,102t-CO2、	二元報告を実施 M/L= 0.86 前年比 M: 0.95、L: 0.96	Dual Reporting M/L=0.86 Comparison with the previous year	★ ★ ★

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ 2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
MITSUBISHI ELECTRIC Corporation		⇒環境⇒環境報告 2021⇒三菱電機グループ 環境報告 2021⇒環境データ→ →1) バリューチェーンでの温室効果ガス排出量(p.36) →2) 第三者保証検証報告 (p.37) →3) マテリアルバランス→つくる（アウトプット）→排出物（生産時）(p.34)				ロケーション基準：942,312t-CO2 ・バリューチェーンでの温室効果ガス排出量 (p36) マーケットベース：契約に基づいた電力の排出係数で算定 ロケーションベース：区域内における発電の平均排出係数で算定 ・マテリアルバランス→つくる（アウトプット）→排出物（生産時）→大気への排出→温室効果ガス排出量（CO2換算）→CO2※7 (p.34) ※7 国内：0.487t-CO2/MWh（2013 年電気事業連合会公表値、原発 2 基稼動時）、海外：一般社団法人 日本電機工業会の公表値（2006 年）を参照し算出。	排出係数： 記載 1（バリューチェーンでの温室効果ガス排出量） マーケットベース：契約に基づいた電力の排出係数で算定 ロケーションベース：区域内における発電の平均排出係数で算定 記載 2（マテリアルバランス） 国内：0.487t-CO2/MWh（2013 年電気事業連合会公表値、原発 2 基稼動時）、海外：一般社団法人 日本電機工業会の公表値（2006 年） ⇒排出係数についての記載 1 と記載 2 に整合性がない。記載を統一するのが望ましい。 ⇒記載 1 の国内のマーケットベース排出量の「契約に基づいた電力の排出係数で算定」で使用した排出係数の種類（例えば、調整後排出係数、基礎排出係数）について、明確に記載するのが望ましい。 ⇒記載 2 の排出係数は双方とも古い排出係数であり、新しい排出係数を使用するのが望ましい。	M: M: 0.95、L: 0.96 Description 1 (GHG emissions in value chain) market-based method: calculating emissions based on electricity emission factor based on contract. location-based method: calculating emissions based on the average emission factor of generation in the area. Description 2 (material balance) In Japan: 0.487t-CO2/MWh (published by Federation of Electric Power Companies of Japan (FEPC) in 2013、when 2 units of nuclear power plant were operating) Outside Japan: value published by the Japan Electrical Manufacturers' Association (JEMA). ⇒There is no consistency between Descriptions 1 and 2. Should unify the descriptions. ⇒ Regarding the market-based method emissions of Japan in Description 1, should clearly describe the type of emission factor (e.g. Adjusted Emission Factor or Basic Emission Factor). ⇒ Since both emission factors in Description 2 are old, should use the latest emission factor.	
	2019 年度		982 Kt-CO2	853 Kt-CO2					
機械 Machines									
カシオ計算機株式会社 CASIO COMPUTER CO., LTD.	2020 年度 FY2020	カシオ計算機ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒環境側面のマテリアリティー⇒環境関連データ⇒環境パフォーマンスデータ →1）温室効果ガス排出量	22,616.3 t-CO2	21,936.8 t-CO2		算定基準 3. アウトプット (1) CO2 排出量 2020 年 ロケーション基準：IEA※1、 マーケット基準 日本国内拠点：	二元報告を実施 M/L = 0.97 前年比：M: 0.91、L:0.91 排出係数 ロケーション基準： IEA (International Energy Agency) Emission factors 2020 edition	Dual Reporting M/L=0.97 Comparison with the previous year M: M: 0.91、L: 0.91 Emission Factor location-based method: IEA (International Energy Agency) Emission factors 2020 edition market-based method:	★ ★ ★ ★

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
		(スコープ1、スコープ2) →2) 算定基準				国内電気事業者別係数※2、 海外拠点： 電気事業者別係数（電気事業者別係数が適用できない場合はIEAを適用） ※1 IEA(International Energy Agency) Emission factors 2020 edition ※2 地球温暖化対策の推進に関する法律で定められた電気事業者別の調整後排出係数	マーケット基準： 日本国内拠点 調整後排出係数 海外拠点 電気事業者別係数（電気事業者別係数が適用できない場合はIEAを適用）	business bases in Japan Adjusted Emission Factor Business bases outside Japan Emission factor of electricity utilities (when it is unavailable, using emission factor of IEA)	
	2019 年度	カシオ計算機ウェブサイト ⇒サステナビリティ⇒環境 報告⇒環境関連データ⇒ ⇒1) マテリアルバラン ス ⇒2) バリューチェーン全 体でのCO2 ⇒3) 環境パフォーマンス データ	2021 年報告 24,818.7 t-CO2 2020 年報告 25,081.1 t-CO2	2021 年報告 24,014.8 t-CO2 2020 年報告 24,320.5 t-CO2		・バリューチェーン全体でのCO2 ※ スコープ2 ロケーション基準のCO2排出量の算出は、「算定基準」に記載のCO2排出係数を適用しています。 マーケット基準のCO2排出量の算出は、国内拠点は地球温暖化対策の推進に関する法律で定められた電気事業者別排出係数の電気事業者別CO2調整後排出係数を使用しています。それ以外の拠点については「算定基準」をご参照ください。 ・環境パフォーマンスデータ 算定基準 3. アウトプット (1)CO2排出量 ・電力の使用によるCO2排出量換算係数は、以下のとおり適用しています。 2019 年 ロケーション基準：IEA※1、※1 IEA Emission factors 2019 マーケット基準 日本国内拠点： 国内電気事業者別係数※2、※2 地球温暖化対策の推進に関する法律で定められた電気事業者別排出係数 海外拠点： 電気事業者別係数（電気事業者別係数が適用で	二元報告を実施 M/L = 0.97 ロケーション基準： IEA Emission factors 2019 マーケット基準： 日本国内拠点 調整後排出係数 海外拠点 電気事業者別係数（電気事業者別係数が適用できない場合はIEAを適用）		

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
						きない場合は IEA を適用)			
コニカミノル タ株式会社 KONICA MINOLTA, INC.	2020 年度 FY2020	コニカミノルタウェブサイト⇒サステナビリティ⇒活動報告⇒環境⇒環境データベース⇒ ⇒1) サプライチェーン CO2 排出量 ⇒2) ESG データ⇒環境データ 2021Excel シート) →エネルギー・CO2⇒サプライチェーン CO2 排出量 ⇒3)環境データ算定基準			159 kt-CO2 内訳 Details 生産/研究開発 Production Research and Development 115,270t- CO2 販売・サービス 32,286 t-CO2	サプライチェーン排出量 サプライチェーン全体の CO2 排出量算定の取り組み コニカミノルタは、サプライチェーンの上流から下流までにわたる事業活動にともなう CO2 排出量について、原則として国際標準である GHG プロトコル※の基準に準拠して算定を行っています。 ※ GHG プロトコル：温室効果ガス（Greenhouse Gas：GHG）や気候変動に関する国際スタンダードを開発するイニシアチブ 環境データ算定基準 ・生産/研究開発： 各拠点のエネルギー使用量に、以下の係数を乗じて算出しています。 電気：＜日本＞電気事業連合会が公表する 2005 年度全電源平均値 ＜海外＞GHG プロトコルが公表する各国の 2005 年度 CO2 排出係数 ・販売・サービス ＜オフィス＞ 拠点のエネルギー使用量※2 に、以下の係数を乗じて算出しています。 電気： ＜日本＞ 電気事業連合会が公表する 2005 年度全電源平均値 ＜海外＞ GHG プロトコルが公表する各国の 2005 年度 CO2 排出係数	前年比：0.90 排出係数： 国内：電気事業連合会が公表する 2005 年度全電源平均値 ⇒古い排出係数ではなく最新の排出係数を使用するのが望ましい。また、電気事業連合会が公表する全電源平均値を使用するのが良いか再検討するのが望ましい。 海外：GHG プロトコルが公表する各国の 2005 年度 CO2 排出係数 ⇒古い排出係数ではなく最新の排出係数を使用するのが望ましい	Comparison with the previous year: 0.90 Emission Factor: Using average emission factor of all electric sources of 2005 issued by Federation of Electric Power Companies of Japan (FEPC). ⇒ should use latest emission factor. should review whether using the average emission factor of all electric sources published by FEPC is appropriate or not. Outside Japan: Using CO2 emission factor of 2005 of each county published by GHG Protocol. ⇒ should use the latest emission factor.	★
	2019 年度	サステナビリティレポート 2020、環境データ、 ・サプライチェーン CO2			177 千 t-CO2 内訳	コニカミノルタは、サプライチェーンの上流から下流までにわたる事業活動にともなう CO2 排出量について、原則として国際標準である	排出係数： 国内：電気事業連合会が公表する 2005 年度全電源平均値		

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ 2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments	星印 Stars	
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
		排出量（P132~133）、 ・環境データ算定基準、コ ニカミノルタグループ算定 基準（CO2 排出量）(P130)			生産/研究開 発 139,090 t-CO2 販売・サー ビス Sales・Sser evice 38,110 t-CO2	GHG プロトコルの基準に準拠して算定を行っ ています。 コニカミノルタグループ算定基準（CO2 排出 量） ・生産/研究開発： 電気：＜日本＞電気事業連合会が公表する 2005 年度全電源平均値 ＜海外＞GHG プロトコルが公表する各国の 2005 年度 CO2 排出係数 ・販売・サービス（オフィス） 電気： ＜日本＞電気事業連合会が公表する 2005 年度全電源平均値 ＜海外＞GHG プロトコルが公表する各国の 2005 年度 CO2 排出係数	海外：GHG プロトコルが公表する各国 の 2005 年度 CO2 排出係数		
キャノン Canon	2020 年 Y2020	キャノングローバル・ウエ ブサイト⇒サステナビリテ ィ⇒サステナビリティレポ ート⇒サステナビリティレ ポート 2021⇒ ⇒(1)データ集→地球環境の 保護・保全→CO2 関連デー タ スコープ別の総温室効 果ガス排出量 ⇒(2) 地球環境の保護・保 全→環境マネジメント→ CO2 集計の基本的な考え方 ⇒(3)第三者保証→LR 独立 保証証明書			816,973 t-CO2	CO2 集計の基本的な考え方 京都議定書（改訂版）で定める温室効果ガス （エネルギー系温室効果ガスである CO2 と非 エネルギー系温室効果ガスである PFCs、 HFCs、SF6、N2O、メタン、NF3）を集計の対 象としています。 電力の CO2 換算係数については、電力供給会 社ごとの CO2 換算係数を使用し、CO2 換算計 数が公開されていない電力供給会社について は、地域別の公表値を使用しています（事業所 活動の対象範囲は、P119「環境報告対象事業 所」をご覧ください）。なお、これらの CO2 換 算係数は集計時より遅れて開示されるため、過 年にさかのぼって再計算の上、最新化していま す。「お客さまの使用」については、上記と同 様の換算値を使用し、対象年度の出荷製品が平 均使用年数・平均使用枚数などにおいて消費す る電力量を CO2 換算しています。データ集計 のさらなる精度向上などにより、過去のデータ	前年比：0.92 排出量： LR 独立保証声明書には、スコープ 2 排出 量（マーケットベース及びロケーション ベース）（tCO2e）の指標を評価したとあ るが、環境データには、一つのスコープ 2 排出量のみ記載あり。マーケット基準 かロケーション基準どちらの排出量かわ からない。⇒ロケーション基準及びマー ケット基準手法双方の排出量を記載する のが望ましい。 排出係数： 国内：電力供給会社ごとの CO2 換算係数 を使用。⇒排出係数の種類（例えば、基 礎排出係数、調整後排出係数）を明確に 記載するのが望ましい。	Comparison with the previous year: 0.90 Emissions: It is mentioned in the LR Independent Assurance Statement that measurement of scope 2 emissions (market-based method and location-based method) had been evaluated. However, one scope 2 emissions is described in the Environment Data. Therefore, it is unclear that it is based on market-based method or location-based method. ⇒should describe two emissions of location-based method and market-based method. Emission Factor: In Japan: using emission factor of each electricity suppliers. ⇒ should clearly describe the type of emission factor (e.g. Adjusted Emission Factor or Basic Emission Factor).	★

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ 2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
						が修正される場合があります。 LR 独立保証声明書 以下の環境指標に関するデータの正確性、信頼性の評価 - GHG スコープ 2 排出量（マーケットベース及びロケーションベース）（トン CO2e）			
	2019 年	キャノングローバル・ウェブサイト ⇒CSR・環境⇒環境への取り組み⇒サステナビリティレポート ⇒サステナビリティレポート 2020⇒ (1)データ集 (2)第三者保証			2021 年報告 2021Report 891,734 t-CO2 2020 年報告 2020Report 889,982 t-CO2	LR 独立保証声明書 以下の環境指標に関するデータの正確性、信頼性 スコープ 2 排出量（マーケットベース及びロケーションベース）（tCO2e）	LR 独立保証声明書には、スコープ 2 排出量（マーケットベース及びロケーションベース）（tCO2e）の指標を評価したとあるが、環境データには、一つのスコープ 2 排出量のみ記載あり。マーケット基準かロケーション基準か不明。排出係数の種類について記述なし。		
ニコン NIKON CORPORATION	2021 年 3 月期 Year ended Mar.31, 2021	ニコンウェブサイト⇒サステナビリティ⇒報告書⇒サステナビリティ報告書 2021 データ集			161,824 t-CO2e	※ CO2 換算係数は、下記の値を使用。 [電力] 日本`温対法「電気事業者別基礎排出係数」 英国`残渣ミックス 米国`NERC 地域別残渣ミックス その他海外`国際エネルギー機関（IEA）の国別係数。ただし、ラオスの係数はないのでタイの係数で代用。	前年比：0.93 排出係数： 国内：基礎排出係数を使用 ⇒基礎排出係数を使用するのが良いか再検討するのが望ましい。	Comparison with the previous year: 0.93 Emission Factor: In Japan: using Basic Emission Factor ⇒should review whether using of Basic Emission Factor is appropriate or not.	★
	2020 年 3 月期	ニコン サステナビリティ報告書 2020 「環境問題への対応」関連データ			2021 年報告書の数値 2021Report 173,482 t-CO2e 2020 年報告書の数値 2020Report 174,202 t-CO2e	CO2 換算係数は、下記の値を使用。 〔電力〕 日本：温対法「電気事業者別基礎排出係数」 英国：残渣ミックス 米国：NERC 地域別残渣ミックス その他海外： 国際エネルギー機関（IEA）の国別係数。ただし、ラオスの係数はないのでタイの係数で代用	国内：基礎排出係数を使用		

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ 2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
リコー グループ RICOH Group	2020 年度 FY2020	リコーグループ企業・IR サイト⇒サステナビリティ⇒(1)ESG データブック 2021 ⇒(2)環境、環境影響評価と環境データ⇒環境パフォーマンスデータ⇒温室効果ガス⇒			167.0 kt-CO2	環境パフォーマンスデータ、省エネ・温暖化防止の注に以下の記載がある。 ※2013 年度データからは、CO2 排出量を最新の電力 CO2 排出係数を用いて算出しています。 出典：日本（電気事業者別排出係数（特定排出者の温室効果ガス排出量算定用）－令和元年度実績－、海外（IEA：CO2 Emissions from Fuel Combustion）など	前年比：0.80 排出係数： 国内：電気事業者別排出係数 →排出係数の種類（基礎排出係数又は調整後排出係数）について記述がない。⇒ 排出係数の種類を明確に記載するのが望ましい。	Comparison with the previous year: 0.80 Emission Factor: In Japan: using emission factor of electricity utilities. →there is no description about type of emission factor (e.g. Basic Emission Factor or Adjusted Emission Factor) ⇒ should clearly describe the type of emission factor.	★
	2019 年度	環境パフォーマンスデータ 省エネ・温暖化防止 リコーグループにおける CO2 排出量			206.0 kt-CO2 (ESG Data Book 2021： 207.7 kt-CO2)	※2013 年度データからは、CO2 排出量を最新の電力 CO2 排出係数を用いて算出しています。 出典：日本（電気事業者別排出係数（特定排出者の温室効果ガス排出量算定用）－平成 29 年度実績－、電事連：電気事業における環境行動計画）、海外（IEA：CO2 Emissions from Fuel Combustion）など	国内：電気事業者別排出係数 排出係数の種類（基礎排出係数又は調整後排出係数）について記述がない。		
オリンパス Olympus Corporation	2021 年 3 月期 Year ended Mar. 31, 2021	オリンパスグループ企業情報サイト⇒サステナビリティ⇒サステナビリティライブラリー⇒オリンパスサステナビリティレポート 2021→環境データ集→サプライチェーン全体の CO2 排出量（P28）	70,119 t-CO2e	63,161 t-CO2e		※ GHG プロトコルによる以下の区分で報告しています。スコープ 2：電気の購入など二次利用による温室効果ガス排出量	二元報告を実施 M/L =0.90 前年比 M: 0.87、L: 0.88 排出係数： 排出係数の種類について、記載がない。 （前年にあった排出係数に関する説明が全く無くなった。）⇒ 排出係数の種類を記載するのが望ましい。	Dual Reporting M/L=0.90 Comparison with the previous year M: M: 0.87、L: 0.88 Emission Factor: There is no description about emission factor (There was some description about emission factor in report of last year) ⇒ should clearly describe the type of emission factor.	★ ★ ★ ★
	2020 年 3 月期	2020 年版 CSR データブック 環境パフォーマンス サプライチェーン全体の CO2 排出量(P97)	2021 年報告書 79,959 t-CO2e 2020 年報告書 78,660 t-CO2e	2021 年報告書 72,356 t-CO2e 2020 年報告書 71,295 t-CO2e		スコープ 2：自社が所有・支配する施設で消費するエネルギーの製造時からの排出量 ※ロケーション基準の算出に用いる CO2 換算係数 日本：地球温暖化対策の推進に関する法律にて国が毎年度公表する全国平均係数で 2019 年 3 月期の換算係数を使用しています。	二元報告を実施 M/L =0.91 ロケーション基準 国内：全国平均係数 海外：IEA（International Energy Agency）が公表する係数 マーケット基準		

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
						海外：IEA（International Energy Agency）が公表する係数で 2018 年 3 月期換算係数を使用しています。 【お問い合わせを行い頂いたご回答に基づき追記】 マーケット基準の算出に用いる CO2 換算係数： 日本：地球温暖化対策の推進に関する法律にて国が毎年度公表する係数で、各年度の電力会社別の調整後係数を利用しています。2020 年 3 月期については 2019 年 3 月期の換算係数を使用しています。 海外：IEA（International Energy Agency）が公表する係数で、各年度の国別の換算係数を使用しています。2019 年 3 月期以降については 2018 年 3 月期換算係数を使用しています。ただし、米 国 ・ カ ナ ダ で は、EPA(United States Environmental Protection Agency)および UNFCCC(United Nations Framework Convention on Climate Change)が公表する州別の換算係数を用いて算定しています。 ※購入する再生可能エネルギーおよび自社設置の太陽光パネル等からの電力については換算係数をゼロとしています。 （2020 年版 CSR データブック 96 ページ「CO2 換算係数出典元」） （ご承諾をいただいて記載しています。）	国内：調整後排出係数 海外： 米国・カナダ：EPA(United States Environmental Protection Agency)および UNFCCC(United Nations Framework Convention on Climate Change)が公表する州別の換算係数 その他：IEA が公表する係数		
富士フイルムホールディングス FUJIFILM Holdings Corporation	2020 年度 FY2020	富士フイルムホールディングス・ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒資料・データ（マネジメント編）⇒Sustainability Report 2021 マネジメント編⇒			409,000 tCO2e	スコープ2：データはマーケット基準（p.63）・「CO2 排出量*の推移」（p.64） * 算定方法：省エネ法に準拠し、エネルギー使用による CO2 排出量を算出。買電については各電力会社の排出係数を使用	前年比：0.92 排出係数： 国内：電力会社の排出係数 →排出係数の種類（例えば、基礎排出係数、調整後排出係数）が明確でない。⇒排出係数の	Comparison with the previous year: 0.92 Emission Factor: In Japan: using emission factor of electricity utilities. →there is no description about type of emission factor (e.g. Basic Emission Factor or Adjusted Emission Factor) ⇒ should	★

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
						・2020 年度の地域別 CO2 排出量（R&D・製造・オフィス）(p.64) ＊ 算定方法：省エネ法に準拠し、エネルギー使用による CO2 排出量を算出。日本国内の買電については各電力会社の排出係数を使用。海外は IEA から公表されている国ごとの排出係数を使用	種類を明確に記載するのが望ましい。 海外：IEA の各国の排出係数	clearly describe the type of emission factor. Outside Japan: IEA's emission factor of each country	
	2019 年度	富士フイルムホールディングス・ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒サステナビリティレポート⇒資料・データ（マネジメント編）⇒Sustainability Report 2020 マネジメント編			2021 Report 445,000 tCO2e 2020 Report 474,000 tCO2e	Sustainability Report 2020 マネジメント編 3.2.5 気候変動対策関連データ（GHG 排出量 /CO2 関連） ・「CO2 排出量*の推移」 ＊ 算定方法：省エネ法に準拠し、エネルギー使用による CO2 排出量を算出。買電については各電力会社の排出係数を使用	国内： 電力会社の排出係数 ⇒排出係数：排出係数の種類（e.g.基礎排出係数、調整後排出係数）が明確でない。		
株式会社日立 ハイテク Hitachi High-Tech Corporation	2020 年度 FY2020	日立ハイテク・ウェブサイト⇒企業情報⇒サステナビリティへの取り組み⇒ESG 関連データ⇒温室効果ガス／マテリアルバランス	45,967 t-CO2	38,209 t-CO2		Scope2 *3 *5 マーケット基準 *3 他社から供給された電気、熱の使用に伴う間接排出であり、マーケット基準にて算出。 *5Scope1,2 対象範囲：日立ハイテクグループ（海外現地法人 2 法人を除く）	二元報告を実施 M/L =0.83 前年比 M: 0.81、L: 0.91 排出係数： 排出係数の種類について、記載がない。 ⇒排出係数の種類を明確に記載するのが望ましい。	Dual Reporting M/L=0.89 Comparison with the previous year M: M: 0.81、L: 0.91 Emission Factor: There is no description about emission factor ⇒should clearly describe the type of emission factor.	★ ★ ★
	2019 年度	日立ハイテク・ウェブサイト⇒企業情報⇒CSR への取り組み⇒ESG 関連データ⇒温室効果ガス／マテリアルバランス	50,783 t-CO2	47,182 t-CO2		Scope2 *3 *5 マーケット基準 *3 他社から供給された電気、熱の使用に伴う間接排出であり、マーケット基準にて算出。＜＞内数値はロケーション基準での算出値 *5 Scope1,2 対象範囲：日立ハイテクグループ（海外現地法人 2 法人を除く）	二元報告を実施 M/L = 0.93 排出係数の種類について、記載がない。		
ヤマハ グループ Yamaha Group	2020 年度 FY2020	ヤマハ株式会社：コーポレートサイト⇒サステナビリティ⇒環境・社会データ⇒ヤマハグループ環境データ			119 kt-CO2	マーケット基準	前年比：0.93 排出係数： 排出係数の種類について、記載がない。 ⇒排出係数の種類を明確に記載するのが望ましい。	Comparison with the previous year: 0.93 Emission Factor: There is no description about emission factor ⇒should clearly describe the type of emission factor.	★

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
	2019 年度	ヤマハグループ環境データ			128 kt-CO2	マーケット基準	マーケット基準 排出係数の種類について、記載がない。		
ブラザー工業 株式会社 BROTHER INDUSTRIES, LTD.	2020 年度 FY2020	ブラザー工業ウェブサイト ⇒企業情報⇒サステナビリティ⇒ESG データ⇒環境(E) 関連データ⇒CO2 排出削減	98,508 t-CO2e	98,685 t-CO2e		ロケーション基準に関する排出係数の出典は下記です。 IEA - EMISSION FACTORS 2019 GHG Protocol - Calculation tools DEFRA	二元報告を実施 M/L= 1.00 前年比 M: 0.92、L: 0.91 排出量： マーケット基準排出量がロケーション基準排出量を上回っている。⇒マーケット基準排出量がロケーション基準排出量を上回った理由を説明するのが望ましい。 排出係数： マーケット基準（国内）：排出係数の種類について、記載がない。⇒排出係数の種類を明確に記載するのが望ましい。	Dual Reporting M/L=1.00 Comparison with the previous year M: 0.92、L: 0.91 Emissions: Emissions of market-based method exceeds emissions of location-based method. ⇒should explain reasons why emissions of market-based method exceeds emissions of location-based method. Emission Factor: Market-based method (in Japan) : No description about type of emission factor ⇒ should clearly describe the type of emission factor.	★ ★ ★
	2019 年度		107,833 t-CO2e	107,285 t-CO2e		ロケーション基準に関する排出係数の出典は下記です。 ・ IEA - CO2 EMISSIONS FROM FUEL COMBUSTION 2018 edition ・ GHG Protocol - Calculation tools ・ DEFRA	二元報告を実施 M/L = 0.99 マーケット基準（国内・海外）：排出係数の種類について、記載がない。		
自動車・建設 Automobiles, Construction machinery									
トヨタ自動車 TOYOTA MOTOR CORPORATION	2020 年 Y2020	トヨタ自動車ウェブサイト ⇒企業情報⇒サステナビリティ⇒レポートライブラリ⇒サステナビリティデータブック(p.39)			326 万トン CO2	〈排出係数〉 【Scope1&2 ： 電力】 電気事業者別の排出係数 （一部で『IEA Emissions Factors 2020』の2018 年の排出係数を使用）	前年比：0.92 排出係数： 国内：電気事業者別の排出係数 →排出係数の種類（例、調整後排出係数又は基礎排出係数）が明確でない。⇒排出係数の種類を明確に記載するのが望ましい。	Comparison with the previous year: 0.92 Emission Factor: In Japan: emission factor of each electricity utility →The type of emission factor (e.g., Adjusted Emission Factor or Basic Emission Factor) is unclear. ⇒ should clearly describe the type of emission factor.	★
	2019 年	トヨタ自動車ウェブサイト ⇒企業情報⇒サステナビリティ			2021 年報告 354	環境報告書 2020 (p. 36) 環境マネジメント、	国内：電気事業者別の排出係数 排出係数の種類（調整後排出係数又は基		

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ 2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準（L） Location -based (L)	マーケット 基準（M） Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
		ティ⇒レポートライブラリ ⇒環境報告書 2020 (p.36)			万トン CO2 2020 年報告 378 万トン CO2	工場 CO2 ゼロチャレンジ、F. グローバル CO2 排出量 ・ GHG プト ロコルを使用して算定 ＜対象範囲＞TMC および連結会社 計 130 社 ＜排出係数＞ ・ 電力：電気事業者別の排出係数（一部で『IEA, CO ₂ Emissions from Fuel Combustion 2019』の 2017 年の排出係数を使用） ・ 電力以外：『2006 IPCC Guidelines for National Greenhouse Gas Inventories』 地球温暖化対策の推進に関する法律 『温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル Ver.4.4』	礎排出係数）が明確でない。		
日産自動車 Nissan Motor Co., Ltd.	2020 年度 FY2020	日産自動車ホームページ⇒企業情報サイト⇒日産のサステナビリティ⇒サステナビリティレポート 2021→→1)ESG データ集→企業活動におけるカーボンフットプリント (p.234) →2)第三者保証（p.103）			1,804,759 t-CO2	(注記) 第三者保証にかかわる CO2 排出量、廃棄物発生量、取水量の算定方法（p.103） 生産拠点からの CO2 排出量：社内基準に基づき、サプライヤーからの請求書をベースとする サイト内での各エネルギー使用量データに、各生産拠点にて一般的に入手可能な CO2 排出係数をそれぞれ乗じて算定	前年比：0.86 排出係数： 排出係数の種類について、記載がない。 ⇒排出係数の種類を明確に記載するのが望ましい。	Comparison with the previous year: 0.86 Emission Factor: There is no description about emission factor ⇒should clearly describe the type of emission factor.	★
	2019 年度				2,105,700 t-CO2				
本田技研工業株式会社 グループ Honda Motor Co., Ltd. Group	2020 年度 FY2020	Honda ホームページ⇒企業情報⇒サステナビリティ⇒サステナビリティレポート（Honda Sustainability Report 2021→パフォーマンス報告→環境関連データ→Honda の CO2 排出量(p71)→			3,380 t-CO2e	●スコープ 2：GHG プロトコルで定義されている、企業活動のエネルギー利用にともなう GHG の間接排出（例：工場・オフィスでの電力エネルギーの使用）。上記数字は、Honda および国内外の連結子会社・関連会社の企業活動からの間接 GHG 排出量。一部小規模な会社は除く。 GHG プロトコルのマーケット基準手法を採用。日本は地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく電気事業者別の排出係数を利用。日本	前年比：0.89 排出量： GHG プロトコルのマーケット基準手法を採用 排出係数： 国内：電気事業者別の排出係数を使用→排出係数の種類（基礎排出係数か調整後排出係数）か明確でない。⇒排出係数の種類を明確に記載するのが望ましい。 日本以外；電気事業者別排出係数又は各	Comparison with the previous year: 0.89 Emissions: using market-based method of GHG Protocol Emission Factor: In Japan: using emission factor of each electricity utility. → The type of emission factor (e.g. Adjusted Emission Factor or Basic Emission Factor) is unclear. ⇒ should clearly describe the type of emission factor. Outside Japan: using emission factor of each electricity utility or the latest emission factor of each	★

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準（L） Location -based (L)	マーケット 基準（M） Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
						以外は電気事業者別の排出係数、または各地域での最新の排出係数、これらが入手困難な場合は IEA, Emissions from Fuel Combustion の排出係数を利用。	地域の最新の排出係数、これが困難な場合は、IEA, Emissions from Fuel Combustion の排出係数を利用	area, if it is unavailable, emission factor of IEA, Emissions from Fuel Combustion.	
	2019 年度				3,790 t-CO2e				
三菱自動車 Mitsubishi Motors Corporation	2020 年度 FY2020	三菱自動車ウェブサイト⇒企業・IR・採用⇒サステナビリティ⇒ESG データ集⇒製品・事業活動関連環境データ⇒事業関連デーCO2 排出量（サステナビリティレポート 2021 p.109）			289 kt-CO2	CO2 排出係数について ・「地球温暖化対策の推進に関する法律にもとづく温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」に準ずる ・海外電力の排出係数は、電気事業者別排出係数。一部拠点は、各年度の IEA “CO2 Emissions from Fuel Combustion” または IEA “Emission factors”の排出係数	前年比：0.69 排出係数： 国内：温対法に基づく電力排出係数 ⇒ 排出係数の種類（調整後排出係数又は基礎排出係数）を明確に記載するのが望ましい。	Comparison with the previous year: 0.69 Emission Factor: In Japan: electricity emission factor based on the Warming Countermeasures Act. ⇒should clearly describe the type of emission factor (e.g. Adjusted Emission Factor or Basic Emission Factor)	★
	2019 年度	サステナビリティレポート 2020 ESG データ集 製品・事業活動関連環境データ			2021Report 416 kt-CO2 2020Report 417 kt-CO2	対象拠点：マネジメント対象会社 21 社（カバー率：100%） CO2 排出係数について ・「地球温暖化対策の推進に関する法律にもとづく温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」にもとづく ・海外の電力については、IEA “CO2 Emissions from Fuel Combustion （2018 edition）”から出典	国内：温対法に基づく電力排出係数 排出係数の種類（調整後排出係数又は基礎排出係数）が明確でない。		
コマツ （株式会社 小松製作所） Komatsu Ltd.	2020 年 4 月～ 2021 年 3 月 Year ended Mar. 31, 2021	コマツ・ウェブサイト⇒環境・社会活動(CSR)⇒ESG データブック・データ集⇒(1)サイトデータ及び(1)環境データの対象範囲／算定基準	330 Kt-CO2 （生産事業所 合計） (Production O ffice Total	294 Kt-CO2 （生産事業 所合計） (Production Office Total		Scope-2 CO2 排出量（生産事業所合計） ロケーション基準 Scope2： CO2 排出量＝購入電力量 x CO2 排出係数 CO2 排出係数： 日本；環境省・経済産業省 電気事業者別排出係数代替値 海外；IEA CO2 EMISSIONS FROM FUEL COMBUSTION 2012 の 2010 年の値 マーケット基準 Scope2： CO2 排出量＝購入電力量 x CO2 排出係数	二元報告を実施 M/L = 0.89 排出係数： ロケーション基準： 日本；環境省・経済産業省 電気事業者別排出係数代替値 ⇒電気事業者別排出係数代替値を使用するのが良いか再検討するのが望ましい。 海外；IEA CO2 EMISSIONS FROM FUEL マーケット基準：	Dual Reporting M/L=0.89 Emission Factor: Location-based method 日本：alternative value of emission factor of each electricity utility published by Ministry of the Environment and Ministry of Economy, Trade and Industry. ⇒ should review whether using of alternative value of emission factor is appropriate or not. Outside Japan: IEA CO2 EMISSIONS FROM FUEL Market-based method:	★ ★ ★

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
						CO2 排出係数： 日本；購入電力会社の排出係数実績値 海外；IEA CO2 EMISSIONS FROM FUEL COMBUSTION 2012 の 2010 年の値 但し、再エネ起源電力は排出係数ゼロ	日本：購入電力会社の排出係数実績値 ⇒ 排出係数の種類(調整後排出係数又は基礎排出係数)について、明確に記載するのが望ましい。 海外：IEA CO2 EMISSIONS FROM FUEL COMBUSTION 2012 の 2010 年の値 但し、再エネ起源電力は排出係数ゼロ →古い排出係数を使用⇒最新の排出係数を使用するのが望ましい。	In Japan: actual value of emission factor of electricity utility from which electricity is purchased. ⇒ should clearly describe the type of emission factor (e.g. Adjusted Emission Factor or Basic Emission Factor) Outside Japan: value of 2010 of IEA CO2 EMISSIONS FROM FUEL COMBUSTION 2012, provided that emission factor of renewable energy electricity is zero. →using a old emission factor ⇒ should use the latest emission factor.	
食品・飲料 Foods・Drinks									
味の素株式会社 Ajinomoto Co., Inc.	2020 年度 FY2020	味の素ウェブサイト⇒企業・IR⇒サステナビリティ⇒味の素グループ サステナビリティデータブック⇒サステナビリティデータブック 2021⇒ ⇒(1) 環境マネジメント⇒マテリアルバランス、OUTPUT(p.72) ⇒(2)添付資料 1:環境データ⇒温室効果ガスの排出量削減、温室効果ガス排出量 (p.ii)	910,791 t-CO2	901,789 t-CO2e		1) マテリアリティ別活動報告 環境マネジメント マテリアルバランス OUTPUT データの算出について 上表のマテリアルバランスにおける CO ₂ e 排出量は、ISO 14064-1 を参照し、最新の CO ₂ e 排出係数を用いて算出しています。 2) 添付資料 1 環境データ 温室効果ガスの排出量削減 温室効果ガスの排出量（IEA※1 の CO2 排出係数により算出） ※1 IEA：International Energy Agency（国際エネルギー機関）	二元報告を実施 M/L =0.99 前年比 M: 0.94、L: 0.93 排出係数： マーケット基準： ロケーション基準： →IEA の CO2 排出係数を使用 → IEA の排出係数がどちらの基準に使われたか明確でない。⇒ 各基準について、使用された排出係数の種類を明確に記載するのが望ましい。	Dual Reporting M/L=0.99 Comparison with the previous year M: M: 0.94、L: 0.93 Emission Factor: Market-based method and Location-based method →using CO2 emission factor of IEA. → It is unclear for which method CO2 emission factor of IEA is used ⇒ should clearly describe the type of emission factor used for each method.	★ ★ ★
	2019 年度	サステナビリティデータブック 2020⇒ ⇒(1) 環境マネジメント⇒マテリアルバランス、OUTPUT(p.63) ⇒(2)添付資料 1:環境データ⇒温室効果ガスの排出量削減、温室効果ガス排出量	978,066 t-CO2e	960,375 t-CO2e		サステナビリティデータブック 2020 (1) 環境マネジメント⇒マテリアルバランス・OUTPUT (p.63) スコープ2：他者から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出 (2) 添付資料 1：環境データ、温室効果ガスの排出量削減、温室効果ガスの排出量（IEA の CO2 排出係数から算出）の表	二元報告を実施 M/L =0.98 マーケット基準：IEA の CO2 排出係数 ロケーション基準：排出係数の種類について、記載がない。		

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ 2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準（L） Location -based (L)	マーケット 基準（M） Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
		(p.ii)				スコープ 2 排出量（マーケット基準）2019 年 度 960,375t-CO2e			
カゴメ グループ KAGOME CO., LTD. Group	2020 年度 FY2020	カゴメウェブサイト⇒企業 情報サイト⇒⇒CSR⇒環境 ⇒カゴメグループにおける 環境活動⇒地球温暖化への 対応、地球温暖化の緩和			48,574 t-CO2		前年比：1.00 排出係数： 排出係数の種類について記載がない。⇒ 排出係数の種類を明確に記載するのが望 ましい。	Comparison with the previous year: 1.00 Emission Factor: There is no description about emission factor ⇒should clearly describe the type of emission factor.	★
	2019 年度	CSR、環境、地球温暖化へ の対応、地球温暖化の緩和			48,607 t-CO2		算定基準明記なし		
サントリー ホールディン グス株式会社 Suntory Holdings Limited	2020 年 Y2020	サントリーホームページ⇒ 企業情報⇒サステナビリテ ィ⇒データ集⇒主要サステ ナビリティデータ⇒地球温 暖化防止⇒スコープ 1・2 排出量			324 Kt-CO2e	※GHG 排出量の算出係数は下記のとおり。 電力由来 GHG： （国内）温対法で定められた電力会社別の調整 後排出係数を使用しています。 （海外）電力調達先より入手した排出係数を原 則とし、入手できない場合は、IEA 公表の国別 排出係数を使用しています。	前年比：0.79 排出係数： 国内：調整後排出係数 海外：IEA 公表の国別排出係数	Comparison with the previous year: 0.79 Emission Factor: In Japan: Adjusted Emission Factor. Outside Japan: emission factor for each country published by IEA.	★ ★
	2019 年	サントリーグリーンブサステ ナビリティウェブサイト			408 kt-CO2e	温室効果ガス排出量の算出係数は下記のとおり。 電力由来 CO2： （国内）温対法で定められた電力会社別の調整 後排出係数を使用しています。 （海外）電力調達先より入手した排出係数を原 則とし、入手できない場合は、IEA が発行した World Energy Outlook 2019 における 2017 年の 国別排出係数	国内：調整後排出係数 海外：IEA が発行した World Energy Outlook 2019 における 2017 年の国別排 出係数		
キリンホール ディングス Kirin Holdings Company, Limited	2020 年 Y2020	キリンホールディングス・ ウェブサイト⇒社会との共 有価値⇒環境⇒ESG データ 集⇒環境⇒指標⇒気候変動			477 kt-CO2e	電力は、各電力事業者が広報する排出係数を使 用。無い場合は、当該年の IEA「CO2 Emissions from Fuel Combustion」より国別の排 出係数を使用。	前年比：0.89 排出係数： 各電力事業者が広報する排出係数を使 用。無い場合は、当該年の IEA「CO2 Emissions from Fuel Combustion」より国 別の排出係数を使用。 日本の電力事業者の排出係数の種類の種	Comparison with the previous year: 0.89 Emission Factor: Using emission factor published by each electricity utility. If it is unavailable, emission factor of each country based on the “CO2 Emissions from Fuel Combustion” of IEA of the year concerned. There is no description about emission factor of electricity utility of Japan⇒should clearly describe	★ ★

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ 2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準（L） Location -based (L)	マーケット 基準（M） Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
							類が明記されていない。⇒排出係数の種類を明確に記載するのが望ましい。	the type of emission factor.	
	2019 年	キリンホールディングス・ウェブサイト⇒社会との共有価値⇒環境⇒キリングroup環境報告書 2020 ・環境データ算定方法（p90） ・Scope2（エネルギーの利用に伴う間接的排出）電力および蒸気の購入に伴う GHG 排出量の推移（事業別）（p98)"			538 kt-CO2e	・環境データ算定方法 GHG 排出量の排出係数 電力 ・各電力事業者が広報する排出係数 →ない場合は、当該年の IEA「CO2 Emissions from Fuel Combustion」より国別の排出係数 【お問い合わせを行い頂いたご回答】 国内の Scope2(電力)算出においては、温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度における当該年度の「調整後排出係数」を使用しています。（ご承諾をいただいて記載しています。）	国内：調整後排出係数 海外：各電気事業者の排出係数、ない場合は、IEA の国別排出係数		
アサヒグループホールディングス株式会社 Asahi Group Holdings, Ltd.	2020.1.1~2020.12.31 Year ended Dec. 31,2020	アサヒグループホールディングス・ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒⇒(1)データ集⇒環境→・事業別 CO2 排出量実績・原単位 ⇒(2)マテリアリティ：環境⇒気候変動⇒関連情報→CDP 気候変動質問書 2021 ⇒CDP 気候変動質問書 2021 2021 年 7 月 29 日	372,437 t-CO2e	366,869 t-CO2e	367 ktCO2e	CDP 気候変動質問書 2021 2021 年 7 月 29 日 C.6.3 スコープ 2、ロケーション基準 372,437CO2 換算トン スコープ 2、マーケット基準 366,869 CO2 換算トン C5.2 (C5.2) 活動データの収集や排出量の計算に使用した基準、プロトコル、または方法論の名前を選択します。 オーストラリア - 国家温室効果ガスおよびエネルギー報告法 EU 域内排出量取引制度 (EU ETS): 監視および報告規制 (MMR) - 導入に関する一般ガイダンス 日本の環境省、地球温暖化対策の促進に関する法律の改定による、地球温暖化に対処する対策の促進に関する法律(2005 年改訂) ニュージーランド - 自発的、企業温室効果ガス報告に関するガイダンス	前年比：0.86 M/L =0.99 排出量： ウェブサイト上では、マーケット基準のみが記載されている。⇒CDP 気候変動質問書の回答と同様に、マーケット基準及びロケーション基準双方の排出量をウェブサイトのデータ集でも開示するのが望ましい。 排出係数： 国内：排出係数の種類（例えば、基礎排出係数、調整後排出係数）が明記されていない。⇒排出係数の種類を明確に記載するのが望ましい。	Comparison with the previous year: 0.99 M/L =0.99 Emissions: The emissions of market-based method are only mentioned in the website. ⇒Emissions of both market-based method and location-based method should be disclosed in the website as in the response to CDP Climate Change Questionnaire. Emission Factor In Japan: The type of emission factor (e.g., Basic Emission Factor, Adjusted Emission Factor) is not clearly mentioned. ⇒ should clearly describe the type of emission factor.	★ ★ ★

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ 2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準（L） Location -based (L)	マーケット 基準（M） Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
	2019.1.1~ 2019.12.31	アサヒグループホールディングス・ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒ (1)データ集⇒環境・事業別 CO2 排出量実績・原単位 (2)温室効果ガスの削減⇒第三者検証⇒スコープ 1、2、3 エネルギー使用量、水使用量、排出量データ保証書（2019）(英文)			430,127 tCO2e (2021Report 429 ktCO2e)	スコープ 1、2、3 エネルギー使用量、水使用量、排出量データ保証書（2019）(英文) Scope 2 GHG emissions (Market-based): 430,127 tCO2e 【お問い合わせを行い頂いたご回答】 スコープ 2 排出量はマーケット基準により算定しています。 日本については温対法上の電気事業者の排出係数、海外は各国政府が公表している排出係数を用いて算出しています。また、日本国内においては調整後排出係数を用いております。 （ご承諾をいただいて記載しています。） CDP 気候変動質問書 2021 2021 年 4 月 29 日 スコープ 2（ロケーション基準） 440,956CO2 換算トン スコープ 2（マーケット基準） 424,960 CO2 換算トン	マーケット基準 国内：調整後排出係数 海外：各国政府が公表している排出係数		
医薬 Pharmaceuticals									
大正製薬ホールディングス TAISHO PHARMACEUTICAL HOLDINGS CO., LTD.	2020 年度 FY2020	大正製薬ウェブサイト⇒企業情報⇒社会・環境への取り組み⇒ ⇒環境への取り組み⇒ → 1）地球温暖化防止→二酸化炭素排出量の削減 ⇒ 2）対象範囲・データ算定方法⇒環境データの算定係数			28,940 t-CO2	電気：「電気事業者別排出係数（特定排出者の温室効果ガス排出量算定用）」に示された電気事業者ごとの調整後排出係数	前年比：0.92 排出係数： 調整後排出係数	Comparison with the previous year: 0.92 Emission Factor: Adjusted Emission Factor	★ ★
	2019 年度	大正製薬ウェブサイト⇒企業情報⇒社会・環境への取			31,438 t-CO2	対象範囲・データ算定方法 二酸化炭素排出量の算定係数	国内：調整後排出係数		

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ 2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
		り組⇒ ⇒環境への取り組み⇒ → 1) 環境活動報告書→地球温暖化の防止・省エネルギーの推進→CO2 の削減 (p.3) ⇒ 2) 対象範囲・データ算定方法→環境データの算定係数				電気：「電気事業者別排出係数（特定排出者の温室効果ガス排出量算定用）」に示された電気事業者ごとの調整後排出係数			
小野薬品工業 ONO PHARMACEUTICAL CO., LTD.	2020 年度 FY2020	小野薬品工業ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒ESG データ集⇒環境データ⇒温室効果ガス排出量			15.9 kt-CO2 (マーケットベース, market-based)	温室効果ガス排出量は、下記の計算方法を用いて算定しています。 温室効果ガス排出量＝購入電力量×電力会社公表の調整後排出係数＋Σ（燃料使用量×単位発熱量×炭素排出係数×44/12）＋Σ（フロン類漏洩量×地球温暖化係数） グリーン電力証書のグリーン電力相当量及び J-クレジット制度の認証再生可能エネルギー相当量を控除しています。 GHG 種類：「地球温暖化対策の推進に関する法律」の「温室効果ガス排出量の算定・報告・公表制度」に基づきます。	前年比：0.93 排出量： 前年度の二元報告からマーケットベースのみの開示に変更された。⇒昨年と同様にマーケット基準及びマーケット基準手法双方の排出量を開示するのが望ましい。 排出係数： 国内：調整後排出係数	Comparison with the previous year: 0.93 Emissions: Disclosure is changed from Dual Reporting of last year to market-based-method only. ⇒should disclose emissions of both market-based method and location-based method like last year. Emission Factor: In Japan: Adjusted Emission Factor	★ ★
	2019 年度	小野薬品工業ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒ESG データ集⇒環境データ、省エネルギーおよび地球温暖化対策	15.7 kt-CO2	17.1 kt-CO2			二元報告を実施 M/L =1.09 マーケット基準排出量がロケーション基準排出量を上回っている。 排出係数の種類について、記載がない。		
金融・保険 Finance・Insurance									
三菱 UFJ フィナンシャル・グループ Mitsubishi UFJ	2020 年度 FY2020	三菱 UFJ フィナンシャル・グループウェブサイト⇒サステナビリティ⇒データ集 /GRI ガイドライン対照表⇒			162,159 (t-CO2)	ESG データ（環境編） 【CO2 排出量の算定方法】 2. 電力は温対法に基づく「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」における電気事業者	前年比：0.88 排出係数： 国内：基礎排出係数 ⇒基礎排出係数を使用するのが良いか再検討するのが望まし	Comparison with the previous year: 0.93 Emission Factor In Japan: Basic Emission Factor ⇒should review whether using of Basic Emission Factor is	★

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
Financial Group, Inc.		ESG データ集⇒事業活動における環境負荷低減への取り組み				ごとの基礎排出係数の最新値（2019 年度実績値） 【電力の利用による CO2 排出量】 本レポートでは、電力会社が京都メカニズムクレジットや国内認証排出削減量等を反映していない「基礎排出係数（調整前排出係数）」による算定結果を記載しています。但し、三菱 UFJ 銀行丸の内本館ビルでの再生可能電力使用分は CO2 排出量をゼロとして集計しています。 （対象期間：2020 年 41 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日）	い。	appropriate or not.	
	2019 年度	三菱 UFJ フィナンシャル・グループ⇒データ集/GRI ガイドライン対照表⇒ESG データ集			184,287 t-CO2	〔2019 年度集計の考え方〕 ・電力の利用による CO2 排出量：本レポートでは、電力会社が京都メカニズムクレジットや国内認証排出削減量等を反映していない「基礎排出係数（調整前排出係数）」による算定結果を記載しています。	国内：基礎排出係数（調整前排出係数）		
三井住友フィナンシャルグループ Sumitomo Mitsui Financial Group, Inc.	2021 年 3 月期 Year ended Mar. 31, 2021	三井住友フィナンシャルグループ・ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒各種データ。ダウンロードコンテンツ⇒ESG データブック⇒ESG DATA BOOK 2021			128,313 t-CO2		前年比：1.02 排出量： 排出量が前年を上回っている。⇒排出量が前年を上回った理由を説明するのが望ましい。 排出係数： 排出係数の種類について記載がない。⇒排出係数の種類を記載するのが望ましい。	Comparison with the previous year: 1.02 Emissions: Exceeding the previous year ⇒should disclose the reason for exceeding the previous year. Emission Factor: There is no description about emission factor ⇒should clearly describe the type of emission factor.	★
	2020 年 3 月期	三井住友フィナンシャルグループ・ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒ESG 情報⇒ ・E（環境） ・ESG データブック			126,305 (t-CO2)	サステナビリティ⇒ESG 情報⇒E（環境） SMBC グループの環境データ 【CO2 換算方法】 （※3）電気事業者ごとの実排出係数を使用	国内：電気事業者ごとの実排出係数（現在、基礎排出係数）		

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
みずほフィナンシャルグループ Mizuho Financial Group, Inc.	2020 年度 FY2020	みずほフィナンシャルグループ・ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒ESG 情報インデックス⇒情報開示⇒ESG データ集⇒ESG データブック 2021			基礎排出係数 Basic Emission Factor 155,184 t-CO2 Adjusted Emission Factor 151,198 t-CO2	5 電気事業者別の実排出係数および調整後排出係数を使用 5. CO2 emissions are calculated based on the actual and adjusted emissions factors of individual electric power companies.	前年比： 基礎排出係数排出量：0.92 調整後排出係数排出量：0.92 排出量： 基礎排出係数排出量及び調整後排出係数排出量が開示されている。⇒マーケット基準及びロケーション基準双方で排出量を開示することについて検討するのが望ましい。 排出係数： 基礎排出係数及び調整後排出係数	Comparison with the previous year: Emissions using Basic Emission Factor: 0.92 Emissions using Adjusted Emission Factor:0.92 Both of Emissions using Basic Emission Factor and Emissions using Adjusted Emission Factor are disclosed. ⇒ should consider disclosing of emissions of market-based method and location-based method. Emission Factor Basic Emission Factor and Adjusted Emission Factor	★ ★
	2019 年度	みずほフィナンシャルグループ・ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒ESG 情報インデックス⇒⇒ESG データ集/ESG データブック			(実排出係数. Actual Emission Factor) 168,522 t-CO2 (調整後排出係数 Adjusted Emission Factor) 164,908 t-CO2	CO2 排出量（単位：CO2 トン） 【算定方法】 電気国内分*2（実排出係数）※2 電気国内分*2（調整後排出係数） 電気海外分*3 *2 電気事業者別の実排出係数および調整後排出係数を使用。 *3 International Energy Agency「CO2 Emissions from Fuel Combustion」の排出係数を用いて算定。なお、2019 年の数値は速報値。			
野村ホールディングス Nomura Holdings, Inc.	2021 年 3 月期 (2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日まで) Year ended	野村ホールディングス・ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒ESG データ⇒⇒1)ESG データ PDF⇒ESG データ 2021→環境とのかかわり GHG 排出量(p.11) ⇒2)算定基準一覧⇒算定基準一覧（2021 年 3 月期）			Japan：26,006 t-CO2 Americas：4,112 t-CO2 Europe：4,988 t-CO2 Asia, Oceania：11,275 t-CO2	スコープ 1、2、3 の区分は、The Greenhouse Gas Protocol (GHG Protocol) https://www.ghgprotocol.org の区分に従っています。 算定基準一覧（2021 年 3 月期） 日本分は「地球温暖化対策の推進に関する法律」で定められた方法により、海外分は「The Greenhouse Gas Protocol」等で定められた方法により、各エネルギー使用量に当該エネルギーの排出係数を乗じることにより算出。詳細は下記参照。	前年比： 日本：0.85 米州：0.87 欧州：0.72 アジア・オセアニア：0.69 排出係数： 日本 「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」の係数 ⇒ 排出係数の種類（例えば、基礎排出係数、調整後排出係数）について明確に記載するのが望ましい。	Comparison with the previous year: Japan: 0.85 Americas: 0.87 Europe: 0.72 Asia・Oceania: 0.69 Emission Factor In Japan: emission factor the Warming Countermeasures Act. ⇒ should clearly describe the type of emission factor (e.g. Basic Emission Factor, Adjusted Emission Factor).	★

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
	Mar. 31, 2021					日本：「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」の係数 米州：電気：「US EPA, eGRID 2019 (created February 2021)」の係数 欧州（英国）：「UK Government GHG Conversion Factors for Company Reporting (FY2020)」の係数 欧州（英国以外）：電気：「International Energy Agency, "Emission Factors 2020" (Sep 2020)」の係数 アジア・オセアニア：電気：「International Energy Agency, "Emission Factors 2020" (Sep 2020)」の係数			
	2020 年 3 月期（2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで）	野村ホールディングス・ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒ESG データ⇒ ・環境とのかかわり GHG 排出量 ・算定基準			Japan : 30,709 t-CO2 Europe : 6,880 t-CO2 Americas : 4,728t-CO2 Asia, Oceania : 16,251 t-CO2	ESG データ、環境とのかかわり ・スコープ 1、2、3 の区分は、The Greenhouse Gas Protocol（GHG Protocol） http://www.ghgprotocol.org の区分に従っています。 ・算定基準一覧（2020 年 3 月期） 温室効果ガス（GHG）排出量（Scope1 及び Scope2） 定義・算定方法等 日本分は「地球温暖化対策の推進に関する法律」で定められた方法により、海外分は「The Greenhouse Gas Protocol」等で定められた方法により、各エネルギー使用量に当該エネルギーの排出係数を乗じることにより算出。詳細は下記参照。 日本 「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」の係数 欧州（英国）「UK Government GHG Conversion Factors for Company Reporting (FY2019)」の係数 欧州（英国以外）電気：「International Energy	日本 「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」の係数 ⇒排出係数の具体的種類（基礎排出係数と調整後排出係数）について言及がない。 欧州（英国）「UK Government GHG Conversion Factors for Company Reporting (FY2019)」の係数 欧州(英国以外)電気：「International Energy Agency, "CO2 emissions from fuel combustion (2019 edition)" (Oct 2019)」の係数 米州 電気：「US EPA, eGRID 2018 (created March 2020)」の係数 アジア 電 気：「International Energy Agency, "CO2 emissions from fuel combustion (2019 edition)" (Oct 2019)」		

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
						Agency, "CO2 emissions from fuel combustion (2019 edition)" (Oct 2019)」の係数 米州 電気：「US EPA, eGRID 2018 (created March 2020)」の係数 アジア 電気：「International Energy Agency, "CO2 emissions from fuel combustion (2019 edition)" (Oct 2019)」			
大和証券 グループ本社 Daiwa Securities Group Inc.	2020 年度 FY2020	大和証券グループ本社ウェブ サイト⇒SGDs⇒ESG 情報 インデックス⇒環境 (Environment) ⇒SDGs デ ータ集(環境報告・環境会計) ⇒SDGs データ集 2021PDF →CO2 排出量(p.11)			25,721 t-CO2	算定方法 「Scope1 および Scope2 について」 エネルギー使用の合理化等に関する法律および 地球温暖化対策の推進に関する法律での算定方 法に従い算定。（開示は四捨五入） A) 電力 国内）電気事業者ごとの CO2 排出係数（基 礎排出係数）を用い算定。 海外）各拠点の政府や供給事業者が公表する 最新の CO2 排出係数を用い算定。入手困難な 一部の地域は、IEA（International Energy Agency） が公表する最新の国別の CO2 排出係数を用い 算定。	前年比：0.83 排出係数： 国内：基礎排出係数 ⇒基礎排出係数を使用するのが良いか再 検討するのが望ましい。	Comparison with the previous year: 0.83 Emission Factor In Japan: Basic Emission Factor ⇒should review whether using of Basic Emission Factor is appropriate or not.	★
	2019 年度	大和証券グループ本社ウェブ サイト⇒SGDs⇒ESG 情報 インデックス⇒環境 (Environment) ⇒SDGs デ ータ集 2020⇒CO2 排出量			2021Report 31,172 t-CO2 2020Report 31,203 t-CO2	算定方法 「Scope1 および Scope2 について」 エネルギー使用の合理化等に関する法律および 地球温暖化対策の推進に関する法律での算定方 法に従い算定。（開示は四捨五入） A) 電力 国内）電気事業者ごとの CO2 排出係数（基 礎排出係数）を用い算定。 海外）各拠点の政府や供給事業者が公表す る最新の CO2 排出係数を用い算定。入手困難 な一部の地域は、IEA（International Energy Agency）が公表する最新の国別の CO2 排出 係数を用い算定。	国内：電気事業者ごとの CO2 排出係数 （基礎排出係数） 海外：各拠点の政府や供給事業者が公表す る最新の CO2 排出係数 入手困難な一 部の地域は、IEA（International Energy Agency）が公表する最新の国別の CO2 排出係数を用い算定。		

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ 2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準（L） Location -based (L)	マーケット 基準（M） Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
電力 Electricity Power									
東京電力グループ 5 社 5 Companies of Tokyo Electric Power Company Group	2020 年度 FY2020	東京電力ホールディングス・ウェブサイト⇒環境・社会・ガバナンス情報⇒ESG データ集⇒ESG データ 2021 →環境データ⇒環境データ →温室効果ガス等の排出 (p. 3/8, 7/8, 8/8)	オフィス、発電所等での電力、熱・蒸気の使用による排出量 Indirect Emissions from Office and Power Plant 471 ktCO2e 送配電ロスにより算出される排出量 Indirect Emissions from T&D losses 4,736 ktCO2e	オフィス、発電所等での電力、熱・蒸気の使用による排出量 Indirect Emissions from Office and Power Plant 469 ktCO2e		東京電力グループ 5 社(東京電力ホールディングス、東京電力フュエル&パワー、東京電力パワーグリッド、東京電力エナジーパートナーおよび東京電力リニューアブルパワー) マーケット基準 ・オフィス、発電所等での電力、熱・蒸気の使用による排出量 ロケーション基準 ・オフィス、発電所等での電力、熱・蒸気の使用による排出量 ・送配電ロスにより算出される排出量 * 10 スコープ 2 排出量とは、消費した電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出 * 11 マーケット基準とは、電力購入先ごとの排出係数に基づき算定する基準 * 12 ロケーション基準とは、平均的な排出係数(系統平均排出係数)に基づき算定する基準 * 13 2018 年度以前においてはスコープ 1 排出量の中に送配電ロスに相当する排出量が含まれていたが、2019 年度実績より減少したため GHG プロトコルに基づき算定 東京電力グループ（連結） マーケット基準： オフィス、発電所等での電力、熱・蒸気の使用による排出量 493 千 tCO2eq ロケーション基準： オフィス、発電所等での電力、熱・蒸気の使用による排出量	東京電力グループ 5 社 二元報告を実施 M/L=1.00 前年比 マーケット基準：0.95 ロケーション基準 ・オフィス、発電所等での電力、熱・蒸気の使用による排出量：0.95 ・送配電ロスにより算出される排出量：0.88 排出係数： 排出係数の種類について記載がない。⇒ 排出係数の種類を記載するのが望ましい。 東京電力グループ（連結） 二元報告を実施 M/L=1.00 前年比： マーケット基準：0.95 ロケーション基準 ・オフィス、発電所等での電力、熱・蒸気の使用による排出量：0.94 送配電ロスにより算出される排出量：0.88 排出係数： 排出係数の種類について記載がない。⇒ 排出係数の種類を記載するのが望ましい。	5 Companies of Tokyo Electric Power Company Group Dual Reporting M/L=1.00 Comparison with the previous year market-based method : 0.94、 Location-based method ・ emissions from using electricity, heat, steam at offices and generation facilities etc.: 0.95 ・ emissions from power transmission and distribution loss : 0.88 Emission Factor: There is no description about emission factor ⇒should clearly describe the type of emission factor. Tokyo Electric Power Company Group（consolidated basis） Dual Reporting M/L=1,00 Comparison with the previous year market-based method : 0.95、 Location-based method ・ emissions from using electricity, heat, steam at offices and generation facilities etc.: 0.94 ・ emissions from power transmission and distribution loss : 0.88 Emission Factor: There is no description about emission factor ⇒should clearly describe the type of emission factor.	★ ★ ★

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準（L） Location -based (L)	マーケット 基準（M） Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
						495 千 tCO2eq 送配電ロスにより算出される排出量 4,736 千 tCO2eq			
	2019 年度		オフィス、発電所等での電力、熱・蒸気の使用による排出量 Indirect Emissions from Office and Power Plant 497 ktCO2e 送配電ロスにより算出される排出量 Indirect Emissions from T&D losses 5,395 ktCO2e	オフィス、発電所等での電力、熱・蒸気の使用による排出量 Indirect Emissions from Office and Power Plant 492 ktCO2e		東京電力グループ（連結） マーケット基準： オフィス、発電所等での電力、熱・蒸気の使用による排出量 520 千 tCO2eq ロケーション基準： オフィス、発電所等での電力、熱・蒸気の使用による排出量 525 千 tCO2eq 送配電ロスにより算出される排出量 5,395 千 tCO2eq	東京電力グループ5社 二元報告を実施 M/L=9.99 東京電力グループ（連結） 二元報告を実施 M/L=0.99		
関西電力 Kansai Electric Power Co., Inc.	2020 年度 FY2020	関西電力ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒E 環境→環境への取り組み→気候変動⇒パフォーマンスデータ (P28)			0.6 万 t-CO2	※1「サプライチェーンを通じた温室効果ガス算定に関するガイドライン(ver.2.3)」(環境省/経済産業省)に基づくサプライチェーン全体の温室効果ガス排出量を算定 ※3 間接的な温室効果ガス排出量（スコープ2）では、温対法に基づく報告（事業者）のうち、間接的な CO2 排出として、他社から購入した電気と熱による CO2 排出量を合算。	前年比：1.2 排出量： 排出量が前年を上回っている。⇒排出量が前年を上回った理由を説明するのが望ましい。 排出係数： 排出係数の種類（例えば、基礎排出係数、調整後排出係数）が明記されていない。⇒排出係数の種類を明確に記載するのが望ましい。	Comparison with the previous year: 1.2 Emissions: Exceeding the previous year ⇒should disclose the reason for exceeding the previous year. Emission Factor: There is no clear description about the type of emission factor (e.g., Basic Emission Factor, Adjusted Emission Factor). ⇒ should clearly describe the type of emission factor.	★
	2019 年度	環境データ集 2020 環境関連データ			0.5 万 t-CO2	※1.「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン	国内：調整後排出係数を使用		

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
						(ver.2.3)」(環境省/経済産業省)に基づきサプライチェーン全体の温室効果ガスの排出量を算定。 ※2. 2019 年度の GHG 排出量（単体）は、分社化前であることから関西電力送配電(株)の実績を含みます。 ※4. 間接的な温室効果ガス排出量（スコープ2）では、温対法に基づく報告（事業者）のうち、間接的な CO2 排出として、他社から購入した電気と熱による CO2 排出量を合算。電気に関しては調整後排出係数を使用。			
化学・繊維 Chemical・Textile									
東レ株式会社 Toray Industries, Inc	2020 年度 FY2020	東レウェブサイト⇒サステナビリティ⇒CSR レポートダウンロード⇒CSR レポート 2021→ ESG データ一覧(p.319)			東レ(株) Toray Industries, Inc. 260 kt-CO2 国内関係会社 Affiliates in Japan 270 kt-CO2 海外関係会社 Overseas Affiliate 1,630 kt-CO2		前年比： 東レ(株): 0.87 国内関係会社: 0.93 海外関係会社: 0.86 排出係数： 排出係数の種類について記載がない。⇒ 排出係数の種類を記載するのが望ましい。	Comparison with the previous year: Toray Industries, Inc: 0.87 Group companies in Japan: 0.89 Group companies outside Japan :0.86 Emission Factor: There is no description about emission factor ⇒should clearly describe the type of emission factor.	★
	2019 年度	CSR レポート 2020 ESG データ一覧			東レ(株) Toray Industries, Inc 300k	LR 独立保証証明書 LR の保証業務は、会社および日本国内の関係会社の運営及び活動に対して、以下の要求事項を対象とする。	マーケット基準かロケーション基準かわからない。 マーケット基準及びロケーション基準双方で排出量を算定しているが、一つの排		

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ 2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準（L） Location -based (L)	マーケット 基準（M） Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
					t-CO2 国内関係会 社 Affiliates in Japan 290 kt-CO2 海外関係会 社 Overseas Affiliate 1,900 kt-CO2	・以下の指標に関するデータの正確性 及び信 頼性の評価 環境データ スコープ 2GHG 排出量 2 （マーケット基準及 びロケーション基準） （トン CO2)	出量のみ開示。		
建設・セメン ト Construction・Cement									
清水建設株式 会社（国内外 連結） SHIMIZU CORPORATIO N (consolidated)	2020 年度 FY2020	清水建設ウェブサイト⇒ ESG 経営⇒環境⇒環境パフ ォーマンスデータ→ →1)気候変動阻止 →2)算定基準			58,794 t-CO2	電力: 日本経済団体連合会発表の使用端による 排出係数 2018 年の 0.461t-CO2／MWh を用い て算出。海外電力は CO2 Emissions from Fuel Combustion 2019（International Energy Agency）を用いて算出。	前年比：0.84 排出係数： 国内：日本経済団体連合会発表の使用端 による排出係数 2018 年（0.461t-CO2／ MWh） ⇒日本経済団体連合会発表の排 出係数を使用するのが良いか再検討する のが望ましい。 海外：CO2 Emissions from Fuel Combustion 2019（International Energy Agency）	Comparison with the previous year: 0.84 Emission Factor In Japan: emission factor at use end basis of year 2018 published by Japan Business Federation （0.461t-CO2／MWh） ⇒ should review whether using of emission factor published by Japan Business Federation is appropriate or not. Outside Japan: CO2 Emissions from Fuel Combustion 2019 （International Energy Agency）	★
	2019 年度	ESG 経営、 環境パフォーマンスデー タ、気候変動阻止			69,622 t-CO2		国内：排出係数の種類について、記載が ない。		
鹿島建設 株式会社 KAJIMA	2020 年度 FY2020	鹿島建設ウェブサイト⇒サ ステナビリティ⇒サステナ ビリティデータ⇒環境デー			(建設現場と オフィス Construction sites and		前年比： 建設現場とオフィス：0.67 主要国内グループ会社：0.94	Comparison with the previous year: Construction sites and office: 0.67 Main Group Companies in Japan:	★

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.)	スコープ 2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
CORPORATION		タ集 2021→脱炭素→スコープ別排出量（建設現場とオフィス）			office) 47 kt-CO2 (主要国内グループ会社 Main Group Companies in Japan) 16 kt-CO2		排出係数： 国内：排出係数の種類について、記載がない。⇒排出係数の種類を記載するのが望ましい。	0.94 Emission Factor: There is no description about emission factor ⇒should clearly describe the type of emission factor.	
	2019 年度	サステナビリティ、 環境データ集 2020			(建設現場と オフィス Construction sites and office) 70 kt-CO2 (主要国内グループ会社 Main Group Companies in Japan) 17 kt-CO2	CDP 気候変動質問書 2020 (2019 年 4 月～2020 年 3 月) (C.6.3)御社のスコープ 2 全世界総排出量いくらでしたか。(単位：CO2 換算トン) スコープ 2、ロケーション基準 72,292CO2 換算トン スコープ 2、マーケット基準 70,091 CO2 換算トン (C5.2) 活動データの収集や排出量の計算に使用した基準、プロトコル、または方法論の名前を選択します。 日本の環境省、地球温暖化対策の促進に関する法律の改訂による、地球温暖化に対処する対策の促進に関する法律（2005 年改訂）	国内：排出係数の種類について、記載がない。		
大成建設 株式会社 TAISEI CORPORATION	2020 年度 FY2020	大成建設ウェブサイト⇒サステナビリティ⇒環境・マテリアルフロー⇒マテリアルフロー→ →1) 大成建設のマテリアルフロー →2) 環境データ、指標の算定			57 kt-CO2	環境データ、指標の算定 排出量 CO2 排出係数 電力：日本経済団体連合会発表の使用端による 排出係数 2019 年（京都クレジット反映前）の 0.444 t-CO2/MWh を用いて算出。	前年比：0.83 排出係数： 日本経済団体連合会発表の使用端による 排出係数 2019 年（京都クレジット反映前）（0.444 t-CO2/MWh） ⇒日本経済団体連合会発表の排出係数を使用するのが良いか再検討するのが望ましい。	Comparison with the previous year: 0.83 Emission Factor In Japan: emission factor at use end basis of year 2019 published by Japan Business Federation （before Kyoto credit adjustment）（0.444t-CO2／ MWh）⇒should review whether using of emission factor published by Japan Business Federation is appropriate or not.	★
	2019 年度				69 kt-CO2	環境データ、指標の算定基準 CO2 排出量、排出係数 電力：日本経済団体連合会発表の使用端による	国内：日本経済団体連合会発表の使用端 による排出係数 2018 年（京都クレジット反映前）の 0.461 t-CO2/MWh を用いて		

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準 (L) Location -based (L)	マーケット 基準 (M) Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
						排出係数 2018 年（京都クレジット反映前）の 0.461 t-CO2/MWh を用いて算出	算出		
西松建設 Nishimatsu Construction Co., Ltd.	2020 年度 FY2020	西松建設ウェブサイト⇒ CSR 活動⇒環境⇒環境への 取り組み⇒環境データ⇒ 2020 年度⇒スコープ別 CO2 排出量	31,611.64 t-CO2e	32,836.44 t-CO2e		ロケーション基準：使用電力に関して日建連指 定 CO2 排出係数を適用 マーケット基準：使用電力に関して各電力会社 公表の CO2 排出係数を使用	二元報告を実施 M/L = 1.04 前年比 M: 0.98、L: 1.05 排出量： マーケット基準排出量がロケーション基 準排出量を上回っている。⇒マーケット 基準排出量がロケーション基準排出量を 上回った理由を説明するのが望ましい。 排出係数： ロケーション基準：日建連指定 CO2 排出 係数 ⇒日建連指定 CO2 排出係数を使用する のが良いか再検討するのが望ましい。 マーケット基準： 各電力会社公表の CO2 排出係数を使用 ⇒排出係数の種類（例えば、基礎排出係 数、調整後排出係数）を明確に記載する のが望ましい。	Dual Reporting M/L=1.04 Comparison with the previous year M: 0.89, L: 1.05 Emissions: Emissions of market-based method exceeds emissions of location-based method. ⇒should explain reasons why emissions of market-based method exceeds emissions of location-based method. Emission Factor: Location-based method: CO2 emission Factor designated by Japan Federation of Construction Contractors (NIKKENREN) should review whether using of CO2 emission factor designated by NIKKENREN is appropriate or not. Market-based method: Using CO2 emission factor published by each electricity utility ⇒should clearly describe the type of emission factor (e.g. Basic Emission Factor, Adjusted Emission Factor).	★ ★ ★
	2019 年度	西松建設ウェブサイト⇒ CSR 活動⇒環境への取り組 み⇒環境データ⇒2019 年度 ⇒スコープ別 CO2 排出量	29,977.85 t-CO2e	33,552.01 t-CO2e		ロケーション基準：使用電力に関して日建連指 定 CO2 排出係数を適用 マーケット基準：使用電力に関して各電力会社 公表の CO2 排出係数を使用	二元報告を実施 M/L = 1.12 マーケット基準排出量がロケーション基 準排出量を上回っている。 ロケーション基準：日建連指定 CO2 排出 係数 ⇒CO2 換算係数（経団連指示値） 「電力」の炭素排出係数は、受電端の実 排出係数を使用。（電気事業低炭素社会協 議会「電気の使用に伴う CO2 排出係数 について」） マーケット基準：排出係数の種類が明確		

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ2 排出量 Scope 2 Emissions			報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments		星印 Stars
			二元報告 Dual Reporting		一元報告 Single Reporting				
			ロケーション 基準（L） Location -based (L)	マーケット 基準（M） Market -based (M)	単一の 排出量 Single emissions				
							でない。		
参考 Reference									
Apple	FY2020 September 29, 2019 through September 26, 2020	2021 Environmental Progress Report (p.89)	890,189 t-CO2e	0 t-CO2e		INDEPENDENT ASSURANCE STATEMENT (APEX) Boundary/ Protocol: Worldwide occupied properties / WRI/WBCSD GHG Protocol	二元報告を実施 M/L = 0 (マーケット基準排出量：0) 前年比 M:—, L:1.03	Dual Reporting M/L=0 (market-based emissions: 0t- CO2e) Comparison with the previous year M: —, L: 1.03	
	FY2019 2018.9.30 ~ 2019.9.28	2020 Environmental Progress Report	862,127 t-CO2e	0 t-CO2e		Boundary/ Protocol: Worldwide occupied properties / WRI/WBCSD GHG Protocol INDEPENDENT ASSURANCE STATEMENT Scope of Work Apple requested Apex to include in its independent review the following: ・ Assurance of select environmental data and information included in the Report for the fiscal year 2019 reporting period (September 30, 2018 through September 28, 2019), specifically, in accordance with Apple's definitions and World Resources Institute (WRI)/World Business Council for Sustainable Development (WBCSD) Greenhouse Gas Protocol:	二元報告を実施 M/L = 0 マーケット基準排出量：0 前年のマーケット基準排出量： 8,730(t-CO2e)	Dual Reporting M/L=0	
P&G	FY2021 2020.7.1 ~2021.6.3 0	https://www.pginvestor.com/ esg/environmental/climate/d efault.aspx	2,436,076 t-CO2	156,000 t- CO2		Note: 3 Market-based Scope 2 GHG emissions. Note: Location-based Scope 2 emissions 2021 were 2,436,076 metric tons.	二元報告を実施 M/L= 0.06 前年比 M：0.86、L：0.95	Dual Reporting M/L=0.06 Comparison with the previous year M: 0.86, L: 0.95	
	FY2020 2019.7.1 ~2020.6.3 0	2020 Citizenship Report	2,566,617 t-CO2	404,000 t-CO2		Greenhouse Gas Emissions (GHG) For the purposes of monitoring progress against our goal and listing emissions levels in charts and graphs, we utilize market-based Scope 2 GHG emissions. The WRI/WBCSD GHG accounting protocol provides additional perspective on market-based versus location-based GHG emissions.	二元報告を実施 M/L= 0.16		
BMW Group	2020	BMW GROUP REPORT 2020 BMW GROUP CO2 FOOTPRINT (p.344)	1,250,572 t-CO2	84,257 t-CO2		7 Market-based emissions according to GHG Protocol Scope 2 guidance. VDA factors (updated in June 2019) used since the reporting year 2020. Scope 2 emissions calculated using the location-based method (total bought-in electricity and heat calculated using VDA	二元報告を実施 M/L= 0.07 前年比 M：0.88、L：0.28	Dual Reporting M/L=0.07 Comparison with the previous year M: 0.88, L: 0.28	

企業名 Name	期間 Period	出典（報告書等） Sources (Reports etc.,)	スコープ 2 排出量 Scope 2 Emissions		報告書の注記等 Notes etc., of Reports	作成者コメント Preparer's Comments	星印 Stars	
			二元報告 Dual Reporting					一元報告 Single Reporting
			ロケーション 基準（L） Location -based (L)	マーケット 基準（M） Market -based (M)				単一の 排出量 Single emissions
					factors): 1,250,572 t CO2.			
	2019	SUSTAINABLE VALUE REPORT 2019	1,420,172 t CO2.	302,574 t-CO2		Figures from 2015 onwards not directly comparable to figures from previous years due to changes in system boundaries: emissions from company production locations, including BMW Motorrad Berlin/DE as well as administration, development and central distribution centres. Market-based emissions in accordance with GHG Protocol Scope 2 Guidance. Application of VDA emissions factors revised in 2017. Scope 2 emissions calculated using “location-based” method (overall third-party electricity and heat purchased calculated using VDA factors): 1,420,172 t CO2.	二元報告を実施 M/L = 0.21	